

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成27年 7月17日
【発行者名】	ラッセル・インベストメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼CEO ブルース・ダブリュー・フラーム
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂七丁目3番37号 プラス・カナダ
【事務連絡者氏名】	中野 浩一
【電話番号】	03-5411-3500
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	ラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド (確定拠出年金向け)
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

ラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド（確定拠出年金向け）（以下「当ファンド」または「ファンド」といいます。）

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託（契約型）の受益権（以下「受益権」といいます。）です。

なお、当初元本は1口当たり1円です。

当ファンドでは、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるラッセル・インベストメント株式会社（以下「委託会社」といいます。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の基準価額 とします。

「基準価額」とは、純資産総額（信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および信託約款に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。以下同じ。）を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりの価額で表示されることがあります。

ただし、収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせ下さい。また、基準価額は、原則として計算日（委託会社の営業日）の翌日付の日本経済新聞朝刊に略称（「ラッセル」の「年金日株」）として掲載されます。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120 - 055 - 887（フリーダイヤル）

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

(5)【申込手数料】

申込手数料はありません。

(6)【申込単位】

1円以上1円単位とします。

ただし、収益分配金の再投資による取得申込みについては、1口の整数倍をもって取得することができます。

(7)【申込期間】

平成27年7月18日から平成28年7月15日まで

平成28年7月16日以降の申込期間については、事前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8)【申込取扱場所】

販売会社において取得申込みの取扱いを行います。

販売会社については、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120 - 055 - 887（フリーダイヤル）

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

(9) 【払込期日】

取得申込者は、販売会社が指定する日までに申込代金を販売会社に支払うものとします。
各取得申込受付日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、販売会社により委託会社の指定する口座を經由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

取得申込者は、取得申込みの販売会社（前述の「(8) 申込取扱場所」をご参照下さい。）に申込代金を支払うものとします。

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの受益権の振替機関は下記の通りです。
株式会社 証券保管振替機構

(12) 【その他】

取得申込者の制限

当ファンドは、確定拠出年金法に基づいて、個人または事業主が拠出した資金を運用するためのファンドです。取得申込者は確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて取得の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等に限るものとします。

申込方法

(a) 取得申込者は販売会社に取引口座を開設のうえ、取得申込みを行うものとします。

(b) 取得申込者は販売会社との間で、別に定める「自動けいぞく投資契約」を締結するものとします。

販売会社によっては、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約または規定が用いられることがあり、この場合は当該別の名称に読み替えるものとします。

(c) 収益分配金は、原則として無手数料で自動的に再投資されます。

取扱時間

各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた取得申込みを、当日の受付分とします。この時刻を過ぎて行われる取得申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込みの受付の取消

取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込みの受付を取消する場合があります。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。

日本以外の地域における発行

該当事項はありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとします。

当ファンドの収益分配金、償還金、換金代金は、社振法および前述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<ファンドの目的>

当ファンドは、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

<信託金の限度額>

委託会社は、受託会社と合意のうえ、1兆円を限度として信託金を追加することができます。
委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

<基本的性格>

当ファンドが該当する一般社団法人投資信託協会による商品分類および属性区分は以下の通りです。

商品分類表（当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国 内	株 式
	海 外	債 券
追加型	内 外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

《商品分類の定義》

追加型：

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

国 内：

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

株 式：

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分表（当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
--------	------	--------	------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリー ファンド
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性()	年2回 年4回 年6回(隔月)	日本 北米 欧州 アジア オセアニア	
不動産投信	年12回(毎月)	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ
その他資産 (投資信託証券(株式 一般))	日々	アフリカ	
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型	その他()	中近東(中東) エマージング	

《属性区分の定義》

その他資産（投資信託証券（株式 一般））：

目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。当ファンドは、投資信託証券（親投資信託）を通じて主として株式（大型株および中小型株属性にあてはまらないすべてのものをいいます。）に投資します。

年1回：

目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。

日本：

目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド：

目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。

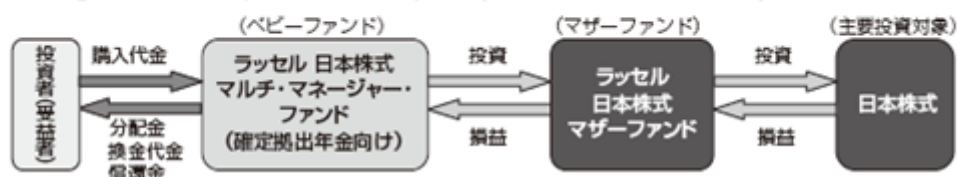
（注1）当ファンドは投資信託証券（親投資信託）を通じて、主に株式に投資するため、「商品分類」における投資対象資産（収益の源泉）と「属性区分」における投資対象資産は異なります。

（注2）上記は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づいて記載しています。当ファンドが該当しない（網掛け表示していない）商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

<ファンドの特色>

◇日本の株式を実質的な主要投資対象とします。

当ファンドはファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、投資者（受益者）から投資された資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を「ラッセル 日本株式マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）に投資して、実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



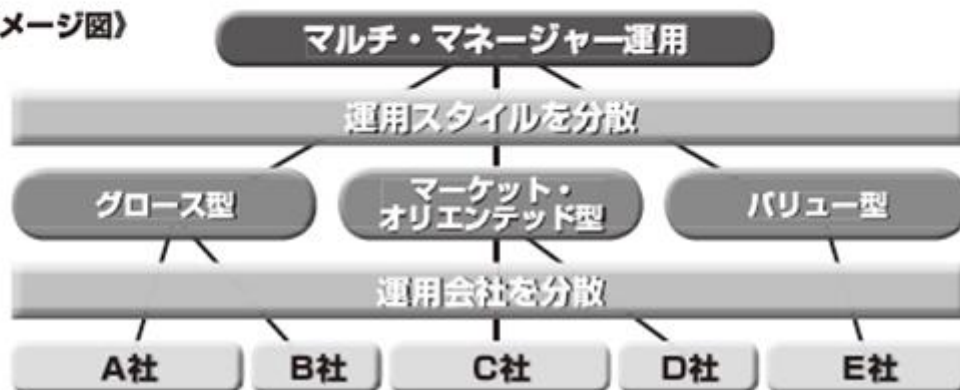
◇TOPIX(配当込み)をベンチマークとし、中長期的に安定してベンチマークを上回ることを目指します。

※TOPIX(配当込み)は東京証券取引所第一部に上場されているすべての銘柄の時価総額を指数化したものに、現金配当による権利落ちの修正を加えたものです。TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

◇運用スタイルの異なる複数の運用会社を組み合わせた「マルチ・マネージャー運用」を行います。

●世界中から厳選した複数の運用会社を、最適と判断される目標配分割合で組み合わせます。

〈イメージ図〉



〈運用スタイルについて〉

運用スタイルは、投資対象のどのような面に焦点をあて銘柄選択を行うか、付加価値を生み出すためにどのような要因に着目するかなどによって分類されます。株式を主要投資対象とするファンドの場合、以下の運用スタイルなどがあります。

グロース(成長)型 : 特に企業の成長性に着目し、利益等の成長性が市場平均よりも高いと考える株式(グロース株)を主な投資対象とする運用スタイルをいいます。

バリュー(割安)型 : 特に株価水準に着目し、企業の資産価値などから判断して株価が過小評価されていると考える株式(バリュー株)を主な投資対象とする運用スタイルをいいます。

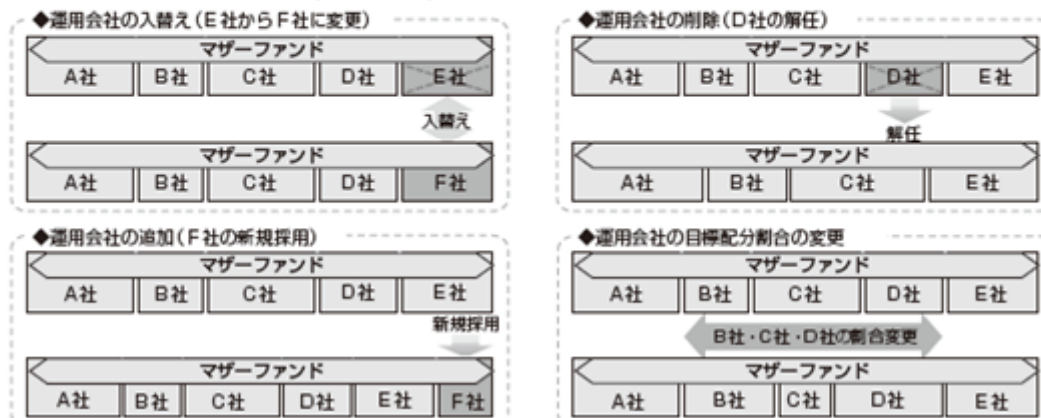
マーケット・オリエンテッド型 : 「グロース(成長)型」や「バリュー(割安)型」のように、特定の傾向をもつ株式のみに焦点を当てるのではなく、幅広い株式を投資対象とします。

※「運用会社」について、運用の指図にかかる権限を委託する運用会社を「外部委託先運用会社」、外部委託先運用会社が投資助言を受ける会社を「投資助言会社」ということがあります。

※「目標配分割合」とは、マルチ・マネージャー運用において運用会社を組み合わせる際に目安とする配分割合をいいます。

●運用会社を継続的にモニタリングし、必要に応じて運用会社や目標配分割合の変更を行います。以下はマルチ・マネージャー運用の代表的な事例のイメージ図です。運用に際しては、以下の事例とは異なる運用会社や目標配分割合の変更を行うことがあります。なお、当ファンドではマザーファンドにてマルチ・マネージャー運用を行います。

マルチ・マネージャー運用事例(イメージ図)



●運用会社や目標配分割合の変更は、原則として事前の告知なく随時行います。

運用会社および目標配分割合に関する最新の情報は委託会社のホームページでご提供しております。なお、2015年7月17日現在の状況は以下のとおりです。

運用スタイル	運用会社(外部委託先運用会社/投資助言会社)	目標配分割合
グロース(成長)型	新光投信株式会社(日本)	20%
	カムイ・キャピタル株式会社(日本)(投資助言) ^(注)	7%
バリュー(割安)型	J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社(日本)	16%
	ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク(米国)	10%
マーケット・オリエンテッド型	スパークス・アセット・マネジメント株式会社(日本)(投資助言) ^(注)	12%
	ニューメリック・インベスターズ・エル・エル・シー(米国)	35%

(注)各投資助言会社の投資助言に基づき、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク(米国)が運用の指図を行います。

※マザーファンド全体の運用効率を高めること、各運用会社の入替え等に際しての資産の移転管理および一時的な運用、委託会社が必要と判断した場合におけるマザーファンドの一部についての運用(投資助言会社からの投資助言等に基づく運用を含みます。)等を行うため、「ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク(米国)」を採用しています。

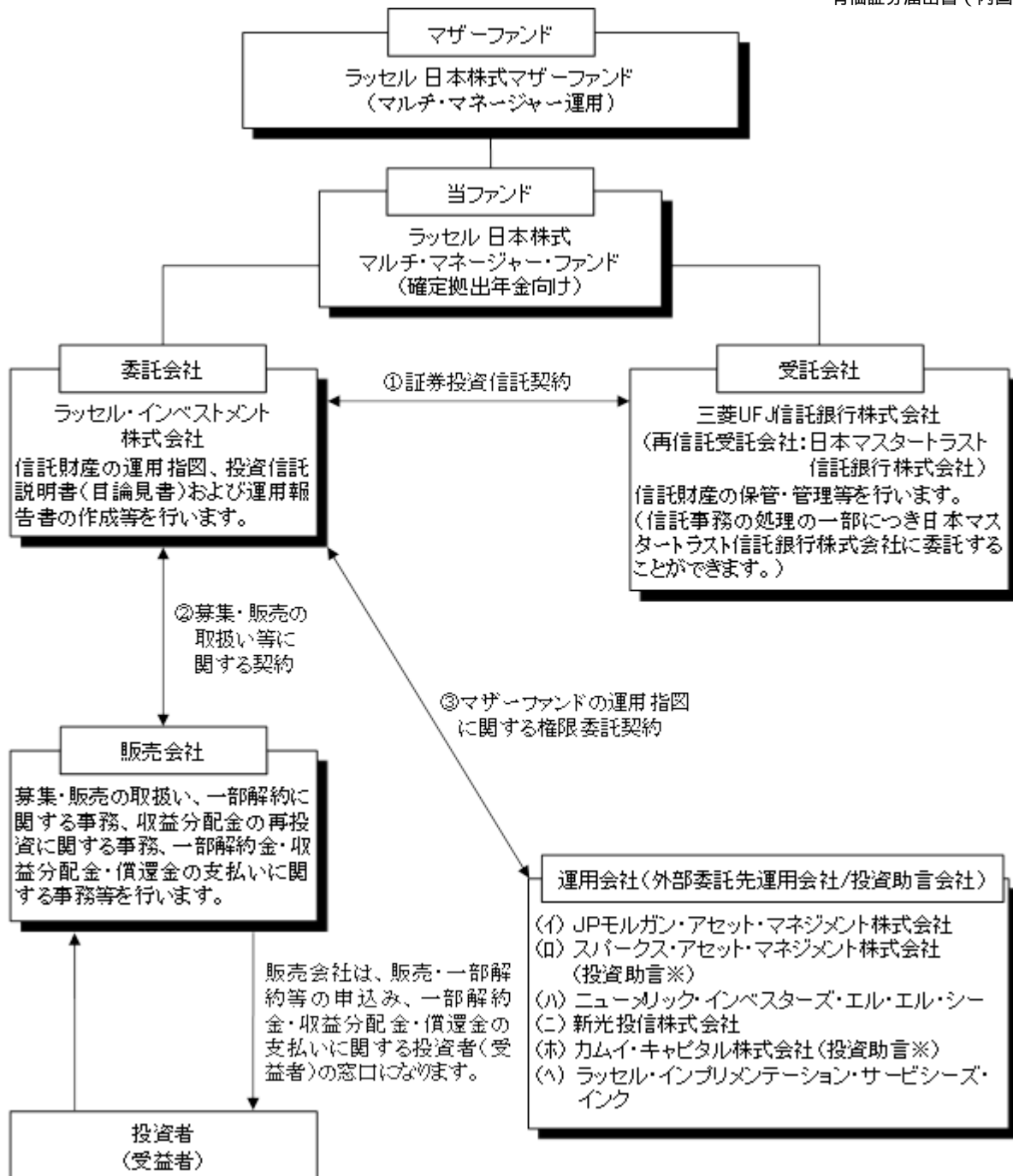
資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【ファンドの沿革】

平成16年1月30日 信託契約の締結、当ファンドの設定日(運用開始日)

(3)【ファンドの仕組み】

<ファンドの関係法人および運営上の役割>



各投資助言会社の投資助言に基づき、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクが運用の指図を行います。

(注) 上図は、平成27年7月17日現在のものです。上記の運用会社は事前の告知なく随時変更され、平成27年7月17日現在のものと異なることがあります。

< 契約の概要 >

証券投資信託契約

委託会社と受託会社の間で締結され、証券投資信託の運営に関する事項（運用の基本方針、投資対象、投資制限、委託会社、受託会社および受益者の権利義務関係等）を定めた契約です。

募集・販売の取扱い等に関する契約

委託会社と販売会社の間で締結され、募集・販売の取扱い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等にかかる包括的な規則を定めた契約です。

マザーファンドの運用指図に関する権限委託契約

委託会社と各外部委託先運用会社の間で締結され、マザーファンドの運用指図権限の委託に関する業務の内容を定めた契約です。なお、外部委託先運用会社によって、運用指図権限を委託する内容等は異なります。

（参考：マザーファンドの運用における投資助言契約）

外部委託先運用会社と投資助言会社の間で締結され、外部委託先運用会社がマザーファンドの運用指図を行う際の投資助言の内容を定めた契約です。なお、投資助言会社によって、投資助言を受ける内容等は異なります。

< 委託会社の概況 >

資本金の額 1,609.5百万円（平成27年5月末現在）

沿革

平成11年 3月 9日	フランク・ラッセル投信株式会社設立
平成11年 3月25日	「証券投資信託及び証券投資法人に関する法律」に基づく証券投資信託委託業の認可取得
平成11年11月15日	「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資顧問業者の登録
平成12年 1月27日	「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約に係る業務の認可取得
平成14年 7月18日	「フランク・ラッセル株式会社」に商号変更
平成18年 2月16日	「ラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社」に商号変更
平成18年 3月 1日	ラッセル・インベストメント証券株式会社と合併
平成19年12月21日	「ラッセル・インベストメント株式会社」に商号変更

大株主の状況

（平成27年5月末現在）

株主名	住所	所有株式数	持株比率
ラッセル・インベストメント・グループ株式会社	東京都港区赤坂七丁目3番37号 プラス・カナダ	34,090株	100%

（参考）

ラッセル・インベストメント株式会社の概要

ラッセル・インベストメント株式会社は、ラッセル・インベストメントグループ（以下「ラッセル」といいます。）の日本拠点です。グローバルな事業展開により培ったノウハウをファンド運用に活かして、長期的に安定した収益を生み出すファンドを投資者の皆様を提供することを目指しており、これまで世界各国で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、提供しております。

ラッセル・インベストメントグループの概要

ラッセル・インベストメントグループは、年金、金融機関および個人など様々な投資者の皆様を対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理など幅広く業務を行っており、当グループの運用資産総額（オーバーレイ運用を含みます。）は平成26年12月末現在で約33兆円となっています。当グループの創立は1936年。米国ワシントン州シアトルを本拠地とします。

2【投資方針】

(1)【投資方針】

主要投資対象

マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式、公社債等の有価証券または金融商品に直接投資を行う場合があります。

運用方法

(a)投資態度

- 主としてマザーファンド受益証券に投資を行い、信託財産の長期的成長を目指します。
- マザーファンドは、わが国の取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式を主要投資対象とします。
- 株式以外の資産への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。
- TOPIX（配当込み）をベンチマークとします。
- 実質組入外貨建資産に対する為替ヘッジは、市況動向、資金動向等により委託会社が適切と判断した場合に行うことがあります。

6. 資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、為替ヘッジも含め、上記のような運用ができない場合があります。
7. 信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため（ヘッジ目的に限定されません。）、デリバティブ取引を行うことができます。

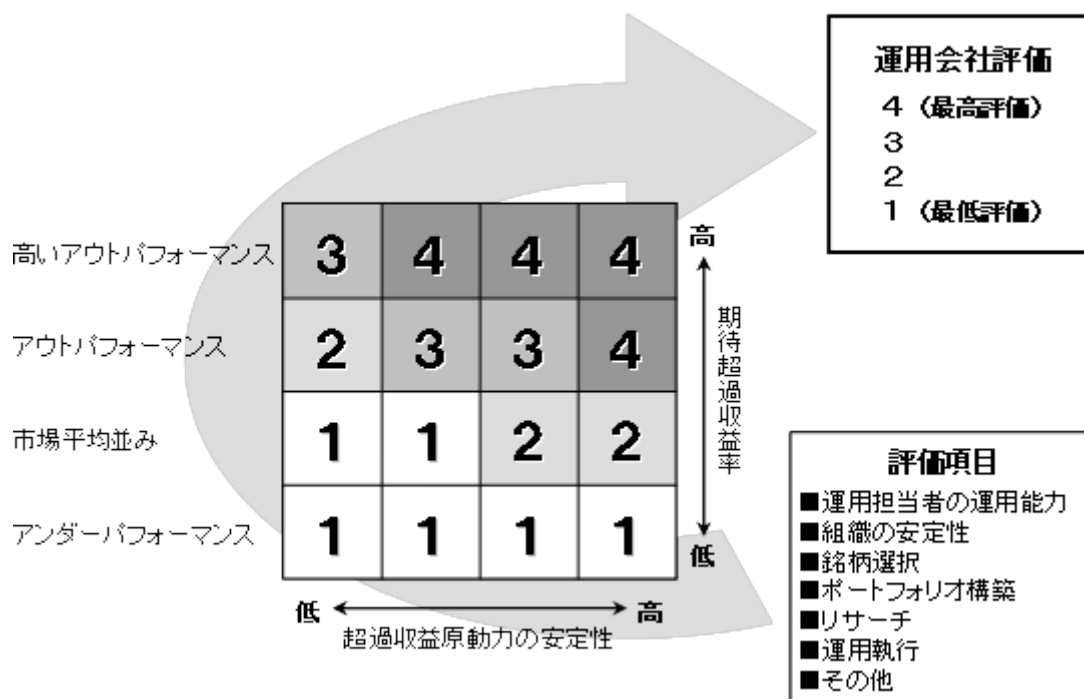
(b)ラッセルの「マルチ・マネージャー運用」の特徴

《特徴1》世界中から優れていると判断される運用会社を厳選します。

将来においても良好なパフォーマンスが期待できる優れた運用会社を選ぶには、パフォーマンスなどの定量的な分析だけにとどまらず、運用プロセスや運用組織、人材の質などの定性的な分析により重点を置いて運用会社を評価することが重要となります。

ラッセル・インベストメント グループの運用会社調査チームは、日本のみならずアメリカやヨーロッパなど世界各国の運用会社を定性・定量両面から綿密に分析・評価し、日本株式の運用において、中長期的に安定してベンチマークを上回る、つまり超過収益を生み出すことが期待できる優れた運用会社を厳選します。

綿密な調査・分析により運用会社を4段階で評価します。



《特徴2》複数の運用スタイル、運用会社に分散しリスクの低減を図ります。

複数の運用スタイルに分散し、それぞれの運用スタイルにおいて優れていると判断される運用会社をバランスよく組み合わせることで、日々変化する経済情勢や投資環境の中にあっても、ファンド全体として中長期的に安定してベンチマーク（TOPIX（配当込み））を上回る、つまり超過収益を生み出すことを目指して運用を行います。

なお、ファンド全体としてより適切なポートフォリオを構築すること、ファンドの運用または執行をより効率的に行うこと等を目的として、ラッセル・インベストメント グループに属する運用会社にファンドの運用を委託することがあります。

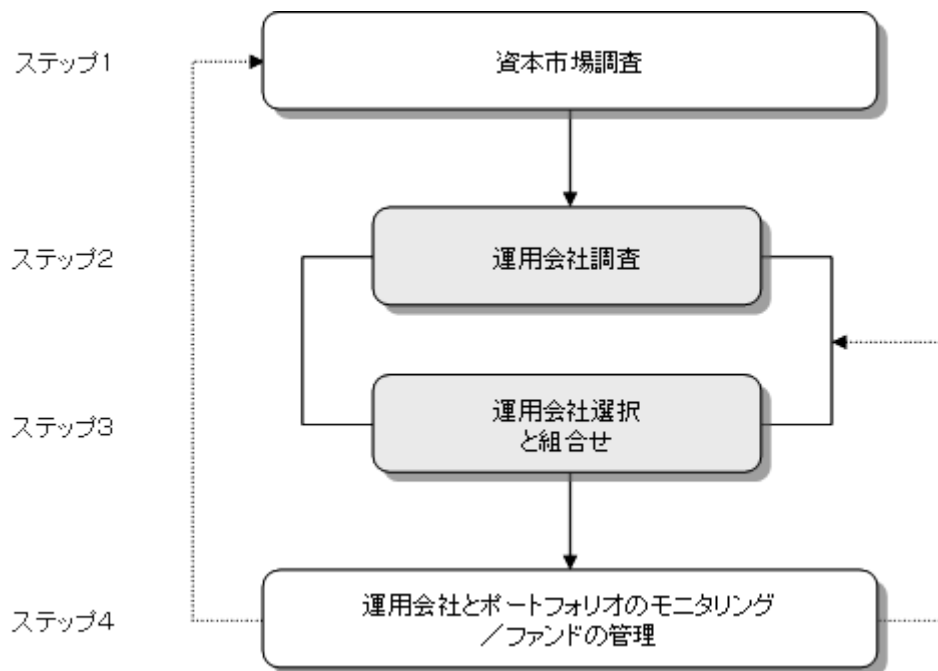
《特徴3》運用会社を継続的にモニタリングし、必要に応じてファンドで採用する運用会社の変更や追加などを行います。

現時点において優れた運用会社が将来においても優れているとは限りません。一方、現時点では優れていなくとも将来的に優れた運用会社に変貌を遂げる可能性もあります。そこで、運用会社を継続的にモニタリングし、運用能力などに変化があった場合には必要に応じてファンドで採用する運用会社の変更や追加などを行うことにより、常に最適と判断される運用会社の構成を目指します。

(c)運用のプロセス

「マルチ・マネージャー運用」は、マザーファンドにおいて行われます。

マザーファンドの「マルチ・マネージャー運用」は、以下のプロセスに基づき運用されます。



ステップ1：資本市場調査

日本株式の運用において超過収益獲得の可能性が高いと判断される運用戦略とそうでない運用戦略を峻別するなど、日本の株式市場の特性を把握することによってファンドの基本設計を行います。

ステップ2：運用会社調査

日本のみならずアメリカやヨーロッパなど世界各国の運用会社を定性・定量両面から綿密に調査・分析し、4段階で評価を行うことによって、日本株式の運用で良好なパフォーマンスが期待できる優れた運用会社を厳選します。

ステップ3：運用会社選択と組合せ

ステップ2の運用会社調査において厳選された優れた運用会社の中から、最適と判断される運用会社の組合せと各運用会社への目標配分割合を見つけ出すために様々なシミュレーション等を実施することにより、ファンドで採用する運用会社とその目標配分割合を決定します。なお、ファンド全体としてより適切なポートフォリオを構築すること、ファンドの運用または執行をより効率的に行うこと等を目的として、ラッセル・インベストメントグループに属する運用会社にファンドの運用を委託することがあります。

ステップ4：運用会社とポートフォリオのモニタリングおよびファンドの管理

運用会社とそのポートフォリオを継続的にモニタリングします。そして運用会社の運用能力に変化が生じた場合など、必要に応じてファンドで採用している運用会社の変更や追加などを行うことによりファンドの管理を行います。

(2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

(a)次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律（以下「投信法」といいます。）第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- 1．有価証券
- 2．デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第22条ないし第24条に定めるものに限りません。）
- 3．金銭債権
- 4．約束手形
- 5．匿名組合出資持分（1．に該当するものを除きます。）

(b)次に掲げる特定資産以外の資産

- 1．為替手形

有価証券の指図範囲

委託会社は、信託金を主としてマザーファンドの受益証券に投資するほか、以下の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

- 1．株券または新株引受権証券

2. 国債証券
 3. 地方債証券
 4. 特別の法律により法人の発行する債券
 5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
 6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
 7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
 8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
 9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
 10. コマーシャル・ペーパー
 11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
 12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
 13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
 14. 投資証券、新投資口予約権証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
 15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りません。）
 17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
 18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
 20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
 21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
- なお、1.の証券または証書ならびに12.および17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券ならびに14.の証券のうち投資法人債券ならびに12.および17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.の証券および14.の証券（新投資口予約権証券および投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

上記 にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3)【運用体制】

委託会社では、運用部が所管する、I D T o k y o ポリシー＆プロシージャー（社内規程）に基づき、当ファンドの運用体制を構築しています。

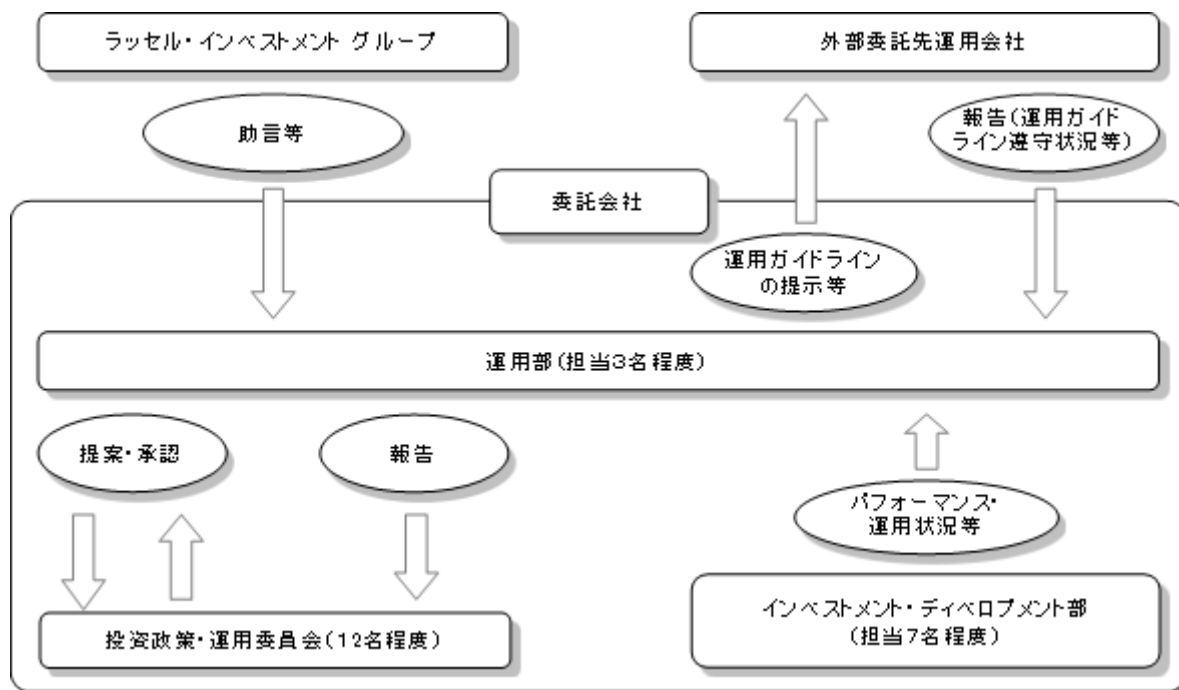
- ・委託会社の投資意思決定は、マザーファンドで採用する外部委託先運用会社の採用・変更、目標配分割合の設定・変更、運用ガイドラインの作成・変更が中心となります。
- ・運用部は、委託会社が属するラッセル・インベストメント グループからの助言等に基づき、外部委託先運用会社の採用・変更や各外部委託先運用会社への目標配分割合の設定・変更等に関して投資政策・運用委員会に提案し、その承認を得ます。ただし、目標配分割合の変更に関しては、ラッセル・インベ

ストメントグループに一定の基準に基づき委託がなされており、投資政策・運用委員会はそのモニタリングを行います。

- ・インベストメント・ディベロプメント部は、当ファンドおよび外部委託先運用会社のパフォーマンス・運用状況等の報告を運用部に行います。

(投資政策・運用委員会)

- ・投資政策・運用委員会は代表取締役会長兼CEO、運用部長およびジェネラル・カウンセルを含む議決権を有する6名の委員と、議決権を有しない準委員で構成されています。
- ・投資政策・運用委員会規程に基づき、原則月に一度、資産評価・運用状況、外部委託先運用会社のガイドライン遵守状況等のモニタリングについて、報告およびその検証を行っています。



また、委託会社では、以下のようにファンド（マザーファンドを含みます。）の関係法人（販売会社を除く）に対する管理を行います。

- ・外部委託先運用会社
委託会社は、運用に関わるリスク管理を重視した運用体制を構築しており、後述の「3 投資リスク（2）投資リスクに対する管理体制」に記載の外部委託先運用会社に対する管理体制を構築しています。
- ・受託会社
オペレーション部（担当5名程度）が、内部統制等についての外部監査報告書を毎年受領し、受託会社の内部統制の状況を確認するほか、信託財産管理に係わるサービスの正確性・迅速性・システム対応力を随時検証し、必要と判断した場合には受託会社に個別説明等を求めることとしております。

上記の体制等は平成27年5月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

(4)【分配方針】

年1回の決算時（原則として毎年4月18日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

1. 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
2. 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。
3. 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

なお、収益分配金は、原則として無手数料で自動的に再投資されます。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(5)【投資制限】

約款による投資制限

- (a) 株式への実質投資割合 には制限を設けません。

実質投資割合とは、当ファンドの信託財産の純資産総額に対する、当ファンドの信託財産に属する資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額のうち当ファンドの信託財産に属するとみなした額との合計額の割合をいいます。以下同じ。

- (b) マザーファンドの受益証券以外の投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- (c) 委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率が、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えることとなる投資の指図をしません。当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うものとします。
- (d) 委託会社は、デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを内容とした運用の指図を行うにあたり、一般社団法人投資信託協会の規則に基づき、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- (e) 投資する株式等の範囲
1. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、および取引所に準ずる市場で取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
 2. 上記1.にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとします。
金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。
- (f) 信用取引の指図範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
 2. 上記1.の信用取引の指図における当該売付にかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付にかかる建玉のうち当該信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることになった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。
- (g) 先物取引等の運用指図・目的・範囲
1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。
 2. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
 3. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
 4. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため（ヘッジ目的に限定されません。）、国内および国外において行われる、金融商品取引法第2条第22項第1号から第4号（ただし、第3号に規定する「前2号及び第5号から第7号までに掲げる取引」は「前2号に掲げる取引」のみとします。）に規定する店頭デリバティブ取引を行うことができます。
- (h) スワップ取引の運用指図・目的・範囲
1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り

金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。

2. スワップ取引の契約期限は、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(i) 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
2. 金利先渡取引および為替先渡取引は、当該取引の決済日が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(j) 有価証券の貸付の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - イ. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 - ロ. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
2. 上記1.に定める限度額を超えることになった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

(k) 公社債の空売りの指図範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡し、または買戻しにより行うことの指図をすることができます。
2. 上記1.の売付の指図は、当該売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

(l) 公社債の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
2. 上記1.の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
4. 上記1.の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。

(m) 外貨建資産への投資制限

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以内とします。

(n) 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

(o) 外国為替予約取引の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。
2. 上記1.の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。

3. 上記2.の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

(p) 資金の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、および再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

法令上の投資制限

当ファンドに適用される投信法等関連法令上の投資制限は以下の通りです。

- (a) デリバティブ取引にかかる制限（金融商品取引法第42条の2第7号、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、運用財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ金融商品取引業者等が定めた合理的な方法により算出した額が当該運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを内容とした運用を行わないものとします。

- (b) 同一法人の発行する株式への投資制限（投信法第9条、同法施行規則第20条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法（平成17年法律第86号）第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）の総数が当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

- (c) 信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

委託会社は、信託財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しません。

（参考）マザーファンドの投資方針

(1) マザーファンドの投資態度

1. わが国の取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式を主要投資対象とし、分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指します。
2. 株式等の組入れにあたっては、フル・インベストメントを基本とします。
3. 株式以外の資産への投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。
4. T O P I X（配当込み）をベンチマークとします。
5. 外貨建資産に対する為替ヘッジは、市況動向、資金動向等により委託会社が適切と判断した場合に行うことがあります。
6. 資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、為替ヘッジも含め、上記のような運用ができない場合があります。
7. 信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため（ヘッジ目的に限定されません。）、デリバティブ取引を行うことができます。

(2) マザーファンドの投資対象

投資の対象とする資産の種類

マザーファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

(a)次に掲げる特定資産

1. 有価証券
2. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第16条ないし第18条に定めるものに限りません。）
3. 金銭債権
4. 約束手形
5. 匿名組合出資持分（1.に該当するものを除きます。）

(b)次に掲げる特定資産以外の資産

1. 為替手形

有価証券の指図範囲

委託会社（運用の指図にかかる権限の委託を受けた者を含みます。以下、において同じ。）は、信託金を主として以下の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
14. 投資証券、新投資口予約権証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りません。）
17. 預託証券（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証券
19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、1.の証券または証書ならびに12.および17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券ならびに14.の証券のうち投資法人債券ならびに12.および17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.の証券および14.の証券（新投資口予約権証券および投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、上記に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

上記にかかわらず、マザーファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3)マザーファンドの投資制限

株式への投資割合には制限を設けません。

投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率が、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えることとなる投資の指図をしません。当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うものとします。

委託会社は、デリバティブ取引等(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを内容とした運用の指図を行うにあたり、一般社団法人投資信託協会の規則に基づき、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

投資する株式等の範囲

1. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、および取引所に準ずる市場で取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
2. 上記1.にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとします。

信用取引の指図範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができますものものとします。
2. 上記1.の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等により、上記2.の売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることになった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

先物取引等の運用指図・目的・範囲

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)
2. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
3. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
4. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため(ヘッジ目的に限定されません。)、国内および国外において行われる、金融商品取引法第2条第22項第1号から第4号(ただし、第3号に規定す

る「前2号及び第5号から第7号までに掲げる取引」は「前2号に掲げる取引」のみとします。)に規定する店頭デリバティブ取引を行うことができます。

スワップ取引の運用指図・目的・範囲

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、または価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、スワップ取引を行うことの指図をすることができます。
2. スワップ取引の契約期限は、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
2. 金利先渡取引および為替先渡取引は、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

有価証券の貸付の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - イ. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 - ロ. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
2. 上記1.に定める限度額を超えることになった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

公社債の空売りの指図範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡し、または買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
2. 上記1.の売付の指図は、当該売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付にかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

公社債の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
2. 上記1.の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
4. 上記1.の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以内とします。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約取引の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。

2. 上記1.の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
3. 上記2.の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

(4) マザーファンドにおける法令上の投資制限

マザーファンドに適用される法令上の投資制限は、前述の「2 投資方針 (5)投資制限 法令上の投資制限」において、当ファンドについて掲げたものと同じです。

(5) マザーファンドで採用している運用会社（外部委託先運用会社 / 投資助言会社）

マザーファンドでは「マルチ・マネージャー運用」を行います。「マルチ・マネージャー運用」では、運用会社のパフォーマンス・運用状況等を継続的にモニタリングし、必要に応じて運用会社や目標配分割合の変更を行います。なお、運用会社や目標配分割合の変更は、原則として事前の告知なく随時行います。

平成27年7月17日現在、マザーファンドで採用している運用会社は以下のとおりです。

(イ) 商号：JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社《日本》

委託内容：バリュー（割安）型株式に重点をおいた運用

(ロ) 商号：スパークス・アセット・マネジメント株式会社《日本》 [投資助言]

投資助言内容：マーケット・オリエンテッド型の運用

スパークス・アセット・マネジメント株式会社の投資助言に基づき、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクが運用の指図を行います。

(ハ) 商号：ニューメリック・インベスターズ・エル・エル・シー《米国》

委託内容：マーケット・オリエンテッド型の運用

(ニ) 商号：新光投信株式会社《日本》

委託内容：グロース（成長）型株式に重点をおいた運用

(ホ) 商号：カムイ・キャピタル株式会社《日本》 [投資助言]

投資助言内容：グロース（成長）型株式に重点をおいた運用

カムイ・キャピタル株式会社の投資助言に基づき、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクが運用の指図を行います。

(ヘ) 商号：ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク《米国》

委託内容：1) キャッシュ・エクイタイゼーション（流動資金の株式化）即ち、運用資産の内、流動資金を株式先物インデックスで運用することにより、ファンドを株式に対してフル・エクスポージャーにし、運用効率を高める。

2) 他の外部委託先運用会社の運用を補完して信託財産全体にかかる適切なポートフォリオを実現することを目的とした、他の外部委託先運用会社の運用にかかる部分以外の信託財産の一部についての運用。

3) 他の外部委託先運用会社の変更に際しての、必要に応じた資産の移転管理および一時的な運用。（トランジション・マネジメント（注））

4) 委託会社が必要と判断した場合における、信託財産の一部についての運用（他の運用会社からの投資助言等に基づく運用を含む。）。

（注）マザーファンドで行うマルチ・マネージャー運用では、委託会社は運用会社のパフォーマンス・運用状況等を継続的にモニタリングし、必要に応じて運用会社や目標配分割合の変更を行います。その際、運用の効率化を図りながらポートフォリオの組替え等を行います（当ファンド設定後に当初ポートフォリオを構築することを含め、以下「トランジション・マネジメント」といいます。）。トランジション・マネジメントを行う場合には、比較的短期の間に通常よりも多くの有価証券等の取引が行われます。この間の意図せざる市場エクスポージャーや市場リスク、機会損失を最小限に抑えるため、委託会社は運用の指図に関する権限の一部をラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクに委託します。なお、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクは、トランジション時の市場エクスポージャーとリスクを管理するためのトレーディング戦略の策定とその実施に特化したブローカー業務も行っており、多くの場合、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクは自社の当該部門をトランジション・マネジメントにかかる有価証券等の取引のブローカーとして利用します。ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクはラッセル

ル・インベストメント グループの各社が世界各国で設定・運用する他のファンドだけでなく同グループ外の顧客に対しても同様のサービスを提供しています。トレーディング戦略の策定とその実施の対価として同社に支払われる売買委託手数料の総額は、運用報告書(全体版)の「利害関係人との取引状況等」においてラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクを利害関係人に準ずるものとみなして開示されます。

なお、マザーファンドで採用する運用会社に関する最新の情報については、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。また、委託会社のホームページでも情報提供を行っております。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887(フリーダイヤル)

(受付時間は営業日の午前9時~午後5時)

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

3【投資リスク】

(1) リスク要因

取得申込みに際しては、当ファンドのリスクおよび留意点を十分ご理解のうえご検討いただきますよう、お願いいたします。

当ファンドの基準価額は、実質的に投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドにおいて、投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドは、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、金融商品取引業者(従来の証券会社)以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の対象とはなりません。

当ファンドの主なリスクとしては、以下のようなものがあげられます。

基準価額の変動リスク

(a) 株価変動リスク

株価は国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(b) 株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(c) 流動性リスク

当ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入株式を売却することで換金代金の手当てを行います。組入株式の市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があり、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

上記は当ファンドの基準価額に影響を及ぼす主なリスクであり、リスクは上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

(a) 当ファンドの取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

(b) 当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等を伴う資金変動等があり、その結果マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

(c) 市況動向や資金動向等によっては、投資方針に沿った運用ができない可能性があります。

(d) 取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、取得申込み、換金申込みの各受付を中止することおよび既に受付けた取得申込み、換金申込みの各受付を取消す場合があります。

(e) 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

(f) 分配金に関する留意点

分配金は、預貯金の利息と異なり、当ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額が下落します。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。

投資者の当ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

(2)投資リスクに対する管理体制

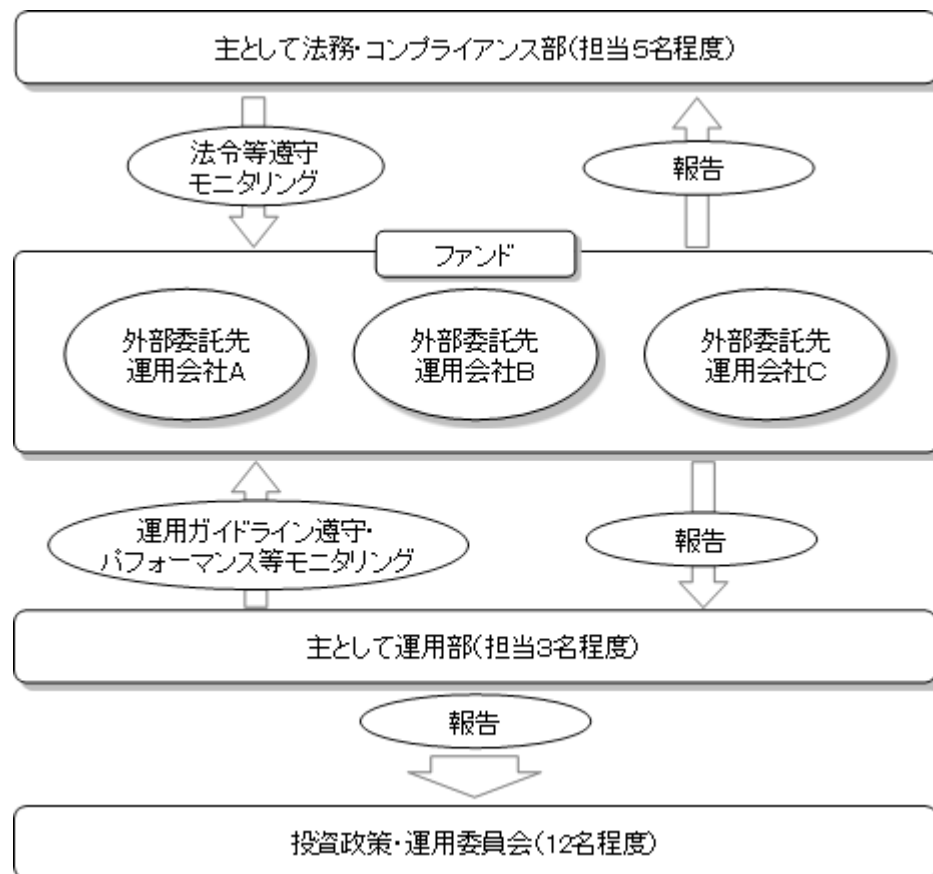
運用に関わるリスクの管理は、外部委託先運用会社の管理、ファンド全体の管理の2段階にわたって行われます。

外部委託先運用会社の管理

- ・外部委託先運用会社については、運用部が所管する、I D T o k y o ポリシー&プロシージャー（社内規程）に基づき、管理しています。
- ・委託会社は、ラッセル・インベストメントグループの協力を得て、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況をモニタリングしています。運用ガイドラインは外部委託先運用会社に対する運用の詳細を定めたもので、ベンチマークや目標リターン、運用スタイルといった運用の性格を記述するとともに、業種別のベンチマーク比乖離の上限、投資可能証券の範囲等を定めています。
- ・外部委託先運用会社は運用ガイドラインに違反した場合には直ちに当社グループに報告する義務があります。また、定期的に各外部委託先運用会社から違反がなかった旨の確認をとっており、その結果が運用部から、投資政策・運用委員会に報告されます。
- ・外部委託先運用会社が投資助言会社の投資助言に基づいて運用の指図を行う場合は、当該投資助言会社に対しても、必要な管理（売買執行にかかるモニタリング等を除きます。）を行います。
- ・グループ会社に対しても、必要な監督を行っています。

ファンド全体の管理

ファンド全体での管理は、法務・コンプライアンス部が法令・信託約款の遵守状況等のモニタリングを通じて行っています。また、同部は定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況の確認をとっています。



上記の体制等は平成27年5月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

参考情報

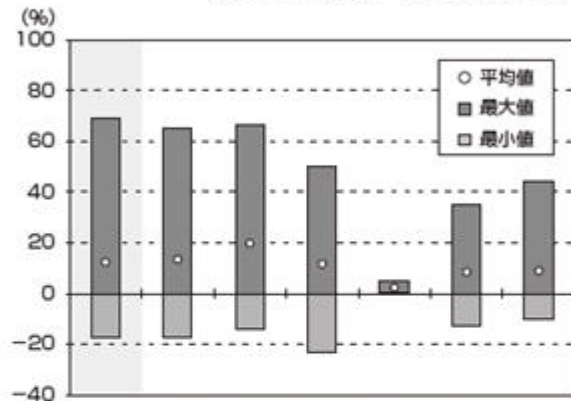
左下のグラフは、2010年6月末から2015年5月末までの5年間に於ける当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移を示したものです。また、右下のグラフは、同期間に於ける当ファンドおよび代表的な資産クラスの年間騰落率の平均値・最大値・最小値を示したものです。

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2010年6月末～2015年5月末)



(単位:%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	12.4	13.6	19.8	11.7	2.4	8.5	9.0
最大値	68.8	65.0	66.5	50.1	4.5	34.9	44.1
最小値	-17.1	-17.0	-14.3	-23.3	0.4	-12.7	-10.1

※当ファンドの分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、実際の基準価額とは異なります。なお、当ファンドは分配実績がないため、分配金再投資基準価額は基準価額と同じになります。

※当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づいて計算しています。

※左グラフに於ける年間騰落率は、同期間での各月末に於ける直近1年間の騰落率で、その推移を棒グラフで表示しています。

※右グラフは、当ファンドおよび代表的な資産クラスの同期間での各月末に於ける直近1年間の騰落率を元に、その平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、右グラフは当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※各資産クラスの年間騰落率の計算に際しては、以下の指数を使用しています。なお、各指数については、後述の「追加的記載事項 「当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」 に用いた指数について」をご参照ください。

日本株 …… TOPIX (配当込み)

先進国株 …… ラッセル先進国 (除く日本) 株インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株 …… ラッセル新興国株インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債 …… NOMURA-BPI 国債

先進国債 …… シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債 …… シティ新興国市場国債インデックス (円ベース)

「当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

◆TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）は東京証券取引所第一部に上場されているすべての銘柄の時価総額を指数化したものに、現金配当による権利落ちの修正を加えたものです。TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

◆ラッセル先進国（除く日本）株インデックス（配当込み、円ベース）

ラッセル先進国（除く日本）株インデックスは、ロンドン証券取引所グループに属する会社が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。ラッセル先進国（除く日本）株インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ロンドン証券取引所グループに属する会社に帰属します。

◆ラッセル新興国株インデックス（配当込み、円ベース）

ラッセル新興国株インデックスは、ロンドン証券取引所グループに属する会社が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。ラッセル新興国株インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ロンドン証券取引所グループに属する会社に帰属します。

◆NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◆シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

◆シティ新興国市場国債インデックス（円ベース）

シティ新興国市場国債インデックス（円ベース）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

申込手数料はありません。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。

また、信託財産留保額ははありません。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.674%（税抜1.55%）の率を乗じて得た金額とします。

信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁されます。

< 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率 >

信託報酬にかかる各支払先への配分は、以下の通りです。

支払先	配 分	役務の内容
委託会社	年率1.026% (税抜 0.95%)	当ファンドの運用等の対価
販売会社	年率0.540% (税抜 0.50%)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での当ファンドに係る管理事務、購入後の情報提供等の対価
受託会社	年率0.108% (税抜 0.10%)	当ファンドの資産管理等の対価

税法が改正された場合等には、消費税等（消費税および地方消費税をいいます。以下同じ。）相当額が変更になることがあります。

委託会社および販売会社の報酬は信託財産中から委託会社に対して支弁され、販売会社の報酬は委託会社が受け取る報酬から販売会社に対して支弁されます。受託会社の報酬は信託財産中から受託会社に対して支弁されます。

なお、委託会社の報酬には、マザーファンドの運用の指図に関する権限の委託を受けた各外部委託先運用会社に対する報酬が含まれています。その報酬額は委託会社と当該外部委託先運用会社との間で別途定められ、信託財産中からの直接的な支弁は行いません。

グループ会社であるラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクへの報酬額については、他の外部委託先運用会社と同様に、委託会社との間で別途定められ、委託会社が受け取る報酬から支弁するものとし、信託財産中からの直接的な支弁は行いません。また、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクが他の運用会社からの助言に基づき運用を行う場合においては、当該運用会社への報酬額はラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクと当該運用会社との間で別途定められ、ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクが受け取る報酬から支弁するものとし、信託財産中からの直接的な支弁は行いません。

(4) 【その他の手数料等】

信託財産に属する有価証券の売買時の売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等相当額および外貨建資産の保管等に要する費用ならびに先物・オプション取引等に要する費用は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁されます。

当ファンドにおいて一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産中から支弁されます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁されます。

なお、その他の手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

当ファンドは確定拠出年金法に基づく確定拠出年金向けファンドです。確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、収益分配金ならびに解約時および償還時の差益については所得税および地方税がかかりません。

なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

確定拠出年金法に規定される税制上の措置の対象外となる場合、課税上の取扱いは次のようになります。

個人の受益者に対する課税の取扱いについて

収益分配時

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税対象となる普通分配金については、原則として、以下の税率で源泉徴収が行われます。

なお、確定申告により、総合課税（配当控除の適用があります。）または申告分離課税を選択することができます。

換金および償還時

換金時および償還時の差益（換金価額および償還価額から申込手数料（税込）を含む取得費を控除したもの）については、原則として、以下の税率で申告分離課税が適用されます。ただし、源泉徴収口座を選択した場合は以下の税率で源泉徴収が行われます。

期間	税率
平成49年12月31日まで	20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)
平成50年1月1日以降	20% (所得税15%および地方税5%)

詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。

損益通算について

換金時および償還時の差損（譲渡損失）については、確定申告により、上場株式等の譲渡所得および配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算が可能です。また、換金時および償還時の差益（譲渡益）および普通分配金（申告分離課税を選択したものに限り、）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

なお、平成28年1月1日以降、損益通算の対象範囲に特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得および譲渡所得等が追加される予定です。

法人の受益者に対する課税の取扱いについて

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税対象となる普通分配金、ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、以下の税率で源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

益金不算入制度の適用があります。ただし、平成27年4月1日以降に開始する事業年度については、益金不算入制度の適用はありません。

期間	税率
平成49年12月31日まで	15.315% (所得税15%および復興特別所得税0.315%)
平成50年1月1日以降	15% (所得税15%)

詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。

< 収益分配金について >

収益分配金には、課税扱いとなる普通分配金と、非課税扱いとなる元本払戻金(特別分配金)の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時に個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

< 個別元本について >

受益者毎の取得時の価額(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)となります。

受益者が当ファンドを複数回取得した場合、個別元本は当該受益者が取得するつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

同一の販売会社の複数支店等で当ファンドを取得する場合は、当該支店等毎に個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額がその後の当該受益者の個別元本となります。

(注1)上記は平成27年5月末現在の情報です。税法または確定拠出年金法が改正された場合等は、上記の内容が変更になる場合があります。

(注2)税制の詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

以下は平成27年5月29日現在の運用状況です。

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	5,530,003,113	100.17
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	9,431,028	0.17
合計(純資産総額)	-	5,520,572,085	100.00

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(参考)ラッセル 日本株式マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	39,652,701,480	97.68
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	940,024,692	2.32
合計(純資産総額)	-	40,592,726,172	100.00

(注) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

その他の資産の投資状況

資産の種類	買建/売建	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株価指数先物取引	買建	日本	985,890,000	2.43

(注1) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(注2) 時価は、原則として計算日に知り得る直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

銘柄名	種類	国/地域	数量	帳簿価額	帳簿価額	評価額	評価額	投資比率(%)
				単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
ラッセル 日本株式マザーファンド	親投資信託受益証券	日本	2,737,218,786	1.8906	5,174,985,837	2.0203	5,530,003,113	100.17

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率をいいます。

投資有価証券種類別投資比率

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	親投資信託受益証券	100.17
	合計	100.17

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参考)ラッセル 日本株式マザーファンド

投資有価証券の主要銘柄

順位	銘柄名	種類	国/地域	業種	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資比率 (%)
1	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	194,800	8,262.91	1,609,615,201	8,604.00	1,676,059,200	4.13
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	日本	銀行業	1,395,300	826.82	1,153,673,590	921.20	1,285,350,360	3.17
3	三菱商事	株式	日本	卸売業	337,300	2,484.92	838,163,516	2,787.00	940,055,100	2.32
4	三井住友フィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	163,400	4,964.99	811,280,046	5,670.00	926,478,000	2.28

5	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	94,700	8,169.76	773,676,670	8,669.00	820,954,300	2.02
6	日本電産	株式	日本	電気機器	73,400	8,173.55	599,938,859	9,085.00	666,839,000	1.64
7	キーエンス	株式	日本	電気機器	9,200	62,734.97	577,161,789	67,100.00	617,320,000	1.52
8	KDDI	株式	日本	情報・通信業	213,300	2,876.47	613,552,681	2,811.00	599,586,300	1.48
9	オリックス	株式	日本	その他金融業	303,200	1,804.00	546,972,800	1,974.50	598,668,400	1.47
10	アステラス製薬	株式	日本	医薬品	271,900	1,876.07	510,103,433	1,812.00	492,682,800	1.21
11	三井物産	株式	日本	卸売業	260,300	1,620.66	421,858,076	1,745.50	454,353,650	1.12
12	MS&ADインシュアランスグループホールディングス	株式	日本	保険業	114,100	3,351.24	382,376,484	3,865.00	440,996,500	1.09
13	野村ホールディングス	株式	日本	証券、商品先物取引業	490,600	717.80	352,152,680	823.60	404,058,160	1.00
14	ミスミグループ本社	株式	日本	卸売業	77,400	4,485.20	347,155,049	5,200.00	402,480,000	0.99
15	本田技研工業	株式	日本	輸送用機器	93,700	4,164.84	390,245,695	4,261.00	399,255,700	0.98
16	日産自動車	株式	日本	輸送用機器	300,500	1,274.12	382,875,150	1,300.50	390,800,250	0.96
17	テルモ	株式	日本	精密機器	135,900	3,113.31	423,098,829	2,826.00	384,053,400	0.95
18	住友商事	株式	日本	卸売業	257,400	1,350.71	347,672,754	1,481.50	381,338,100	0.94
19	ジェイエフイーホールディングス	株式	日本	鉄鋼	125,500	2,803.47	351,835,485	3,036.50	381,080,750	0.94
20	第一生命保険	株式	日本	保険業	173,700	1,972.41	342,607,617	2,183.00	379,187,100	0.93
21	丸紅	株式	日本	卸売業	502,200	714.61	358,879,286	728.00	365,601,600	0.90
22	富士重工業	株式	日本	輸送用機器	76,900	4,031.64	310,033,488	4,698.00	361,276,200	0.89
23	ブリヂストン	株式	日本	ゴム製品	66,100	4,881.85	322,690,285	5,176.00	342,133,600	0.84
24	良品計画	株式	日本	小売業	16,000	18,606.60	297,705,711	21,070.00	337,120,000	0.83
25	フジシールインターナショナル	株式	日本	その他製品	93,300	3,590.90	335,030,970	3,495.00	326,083,500	0.80
26	損保ジャパン日本興亜ホールディングス	株式	日本	保険業	71,900	3,919.46	281,809,174	4,530.00	325,707,000	0.80
27	日本たばこ産業	株式	日本	食料品	71,700	4,135.86	296,541,200	4,540.00	325,518,000	0.80
28	任天堂	株式	日本	その他製品	15,400	20,509.13	315,840,609	21,120.00	325,248,000	0.80
29	日立製作所	株式	日本	電気機器	375,000	805.97	302,241,127	850.00	318,750,000	0.79
30	ダイキン工業	株式	日本	機械	32,800	7,966.00	261,284,800	9,541.00	312,944,800	0.77

(注) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率をいいます。

投資有価証券種類別および業種別投資比率

国内/外国	種類	業種	投資比率(%)
-------	----	----	---------

国内	株式	水産・農林業	0.14
		鉱業	0.39
		建設業	1.74
		食料品	1.77
		繊維製品	0.43
		パルプ・紙	0.29
		化学	5.42
		医薬品	3.79
		石油・石炭製品	0.83
		ゴム製品	0.84
		ガラス・土石製品	2.29
		鉄鋼	2.94
		非鉄金属	1.52
		金属製品	0.69
		機械	3.31
		電気機器	10.26
		輸送用機器	10.27
		精密機器	2.28
		その他製品	3.25
		電気・ガス業	1.05
		陸運業	1.19
		海運業	1.22
		空運業	0.36
		情報・通信業	8.02
		卸売業	8.15
		小売業	4.81
		銀行業	8.90
		証券、商品先物取引業	1.77
		保険業	3.78
		その他金融業	2.02
不動産業	1.16		
サービス業	2.78		
合計		97.68	

（注）投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該業種の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

（有価証券先物取引等）

資産の種類	資産の名称	取引所	限月	買建/ 売建	数量	帳簿価額（円）	評価金額（円）	投資 比率 （％）
株価指数 先物取引	TOPIX 株価指数先物取引	大阪取引所	2015年 6月	買建	59	934,743,400	985,890,000	2.43

（注1）投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（注2）評価金額は、原則として計算日に知り得る直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成27年5月末日および同日1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

期	年月日	純資産総額(円)		1口当たり純資産額(円)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
3期	(平成18年4月18日)	526,882,392	526,882,392	1.7387	1.7387
4期	(平成19年4月18日)	1,131,012,126	1,131,012,126	1.7033	1.7033

5期	(平成20年4月18日)	1,266,914,961	1,266,914,961	1.2709	1.2709
6期	(平成21年4月20日)	1,350,949,668	1,350,949,668	0.8341	0.8341
7期	(平成22年4月19日)	1,969,001,729	1,969,001,729	0.9832	0.9832
8期	(平成23年4月18日)	2,077,882,521	2,077,882,521	0.8556	0.8556
9期	(平成24年4月18日)	2,414,972,967	2,414,972,967	0.8439	0.8439
10期	(平成25年4月18日)	3,667,967,501	3,667,967,501	1.1638	1.1638
11期	(平成26年4月18日)	4,082,064,962	4,082,064,962	1.2542	1.2542
12期	(平成27年4月20日)	5,135,286,124	5,135,286,124	1.6815	1.6815
	平成26年5月末日	4,141,941,172		1.2731	
	平成26年6月末日	4,335,061,105		1.3406	
	平成26年7月末日	4,439,536,046		1.3680	
	平成26年8月末日	4,399,816,436		1.3540	
	平成26年9月末日	4,565,168,810		1.4093	
	平成26年10月末日	4,596,270,236		1.4004	
	平成26年11月末日	4,729,027,458		1.4900	
	平成26年12月末日	4,715,295,956		1.4877	
	平成27年1月末日	4,768,211,949		1.4892	
	平成27年2月末日	4,851,240,966		1.6067	
	平成27年3月末日	4,979,409,432		1.6348	
	平成27年4月末日	5,216,505,149		1.7032	
	平成27年5月末日	5,520,572,085		1.7951	

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
3期	0.0000
4期	0.0000
5期	0.0000
6期	0.0000
7期	0.0000
8期	0.0000
9期	0.0000
10期	0.0000
11期	0.0000
12期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
3期	58.6
4期	2.0
5期	25.4
6期	34.4
7期	17.9
8期	13.0
9期	1.4
10期	37.9
11期	7.8
12期	34.1

(注1) 収益率は、各計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を、前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて算出しています。

(注2) 収益率は、小数点第2位を四捨五入しています。

(参考情報)

以下は金融商品取引法第15条第2項に規定する目論見書(交付目論見書)に掲載している運用実績の情報です。(平成27年5月29日現在)

■基準価額・純資産の推移(2005年5月末～2015年5月末)



※分配金再投資基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後のものです。

※分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

■分配の推移

決算期	2011年4月	2012年4月	2013年4月	2014年4月	2015年4月	設定来累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

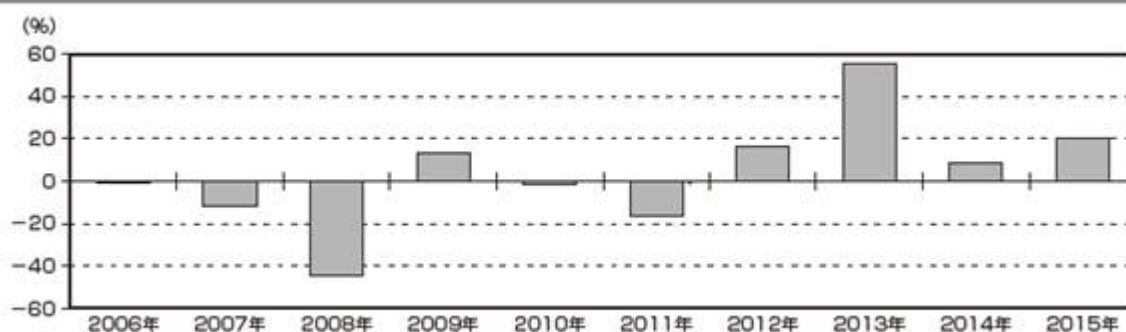
※分配金は1万円当たり、税引前です。

■主要な資産の状況

順位	銘柄名	種類	業種	実質組入比率
1	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	4.1%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	3.2%
3	三菱商事	株式	卸売業	2.3%
4	三井住友フィナンシャルグループ	株式	銀行業	2.3%
5	日本電信電話	株式	情報・通信業	2.0%
6	日本電産	株式	電気機器	1.6%
7	キーエンス	株式	電気機器	1.5%
8	KDDI	株式	情報・通信業	1.5%
9	オリックス	株式	その他金融業	1.5%
10	アステラス製薬	株式	医薬品	1.2%

※実質組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する組入比率に、当ファンドのマザーファンド組入比率を乗じて得た比率です。

■年間収益率の推移(暦年ベース)



※当ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして算出しています。

※2015年は5月末までの収益率を表示。

➤ 当ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績は次の通りです。

期	設定口数(口)	解約口数(口)
3期	324,498,655	77,974,645
4期	491,905,441	130,904,465

5期	535,139,452	202,264,318
6期	868,928,183	246,116,175
7期	629,785,418	246,896,650
8期	712,594,333	286,597,482
9期	815,936,095	382,749,105
10期	915,970,696	626,167,970
11期	1,039,135,563	935,918,355
12期	767,309,757	968,192,432

(注) 本邦外における設定、解約の実績はありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

原則として、いつでも取得申込みを行うことができます。

各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた取得申込みを当日の受付分とします。この時刻を過ぎて行われる取得申込みは翌営業日の取扱いとなります。

取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、取得申込みを中止することおよび既に受付けた取得申込みの受付を取消す場合があります。

当ファンドは、確定拠出年金法に基づいて、個人または事業主が拠出した資金を運用するためのファンドです。取得申込者は確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて取得の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等に限るものとします。

取得申込者は、販売会社に取引口座を開設のうえ、取得申込みを行います。

当初申込時には、販売会社との間で「自動けいぞく投資契約」（以下「別に定める契約」といいます。）を締結していただきます。

販売会社によっては、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約または規定が用いられることがあり、この場合は当該別の名称に読み替えるものとします。

取得申込者は、販売会社が定める日までに取得申込みにかかる金額を当該販売会社に支払います。詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。

申込単位は、1円以上1円単位とします。ただし、別に定める契約に基づく収益分配金の再投資による取得申込みについては、1口の整数倍をもって取得することができます。

申込価額は、取得申込受付日の基準価額とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

なお、基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせ下さい。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

申込手数料はありません。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金（解約）手続等】

原則として、いつでも換金申込みを行うことができます。受益者は、自己に帰属する受益権につき、1口単位をもって「解約請求」または「買取請求」により換金の申込みを行うことができます。ただし、販売会社によっては換金単位が異なる場合があります。詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。

各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた換金申込みを当日の受付分とします。この時刻を過ぎて行われる換金申込みは翌営業日の取扱いとなります。

換金価額は、換金申込受付日の基準価額とします。基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせ下さい。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口のご換金には制限があります。

取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、換金申込みの受付を中止することおよび既に受付けた換金申込みの受付を取消す場合があります。この場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金申込みを受付けたものとして取扱います。

換金代金は、原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

換金手数料はありません。

信託財産留保額ははありません。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。解約請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の計算方法

基準価額は、純資産総額（信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および信託約款に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。）を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。ただし、便宜上1万口当たり換算した価額で表示されることがあります。

主な投資対象の評価方法

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

投資対象	評価方法
マザーファンド	原則として、当ファンドの基準価額計算日における基準価額で評価します。
株式	原則として、基準価額計算日の取引所の最終相場で評価します。

外国で取引されているものについては、原則として、基準価額計算日に知り得る直近の最終相場とします。

基準価額の照会方法等

基準価額は委託会社の営業日に算出されます。基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせ下さい。また、基準価額は、原則として計算日（委託会社の営業日）の翌日付の日本経済新聞朝刊に略称（「ラッセル」の「年金日株」）として掲載されます。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ> <http://www.russell.com/jpin/>

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

原則として、信託期間は無期限です。ただし、後述の「(5) その他 信託契約の終了」による場合、信託は終了する場合があります。

(4)【計算期間】

毎年4月19日から翌年4月18日までとします。各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のときは、各計算期間終了日は該当日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

ただし、最終計算期間の終了日は信託の終了日とします。

(5)【その他】

信託契約の終了

1. ファンドの繰上償還条項

次のいずれかの場合、委託会社は受託会社と合意の上、信託契約を解約し信託を終了させる場合があります。

- (a) 信託契約の一部解約により、設定日から1年経過後、純資産総額が10億円を下回ることとなる場合
 - (b) 信託期間終了前に当ファンドの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき
 - (c) やむを得ない事情が発生したとき
2. 信託期間の終了(繰上償還)
- (a) 上記により信託を終了させる場合は、以下の手続きで行います。
 - イ. 委託会社はあらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
 - ロ. 委託会社は、前項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
 - ハ. 前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月を下らないものとします。当該一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託契約の解約をしません。
 - ニ. 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
 - ホ. 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記ハ.の一定の期間が1ヵ月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には、上記ハ.およびニ.の規定は適用しません。
 - (b) 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
 - (c) 委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したとき、または業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、後述の「信託約款の変更」の手続きにおいて不成立の場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
 - (d) 受託会社が辞任した、または解任された後、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
2. 委託会社は、かかる変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
3. 上記2.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月を下らないものとします。一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、上記1.の信託約款の変更をしません。
4. 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
5. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、上記1.から4.までの規定に従います。

反対者の買取請求権

上記に規定する信託契約の終了または上記に規定する信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、販売会社を通じて、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、公正な価額で信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。当該買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社および販売会社との協議により決定するものとします。

関係法人との契約の更改等

1. 募集・販売の取扱い等に関する契約

委託会社と販売会社との間で締結される「募集・販売の取扱い等に関する契約書」は、当該契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方からの別段の意思表示のないときは、原則1年毎に自動的に更新されるものとします。

2. マザーファンドの運用指図に関する権限委託契約

委託会社と各外部委託先運用会社との間で締結されるマザーファンドの運用指図に関する権限委託契約は、当事者の一方の相手方に対して30日前の書面による解約の意思表示の通知がなされた場合、契約が終了します。ただし、当該契約はマザーファンドの償還日に終了するものとします。

(参考：マザーファンドにおける外部委託先運用会社との投資助言契約)

外部委託先運用会社と投資助言会社との間で締結される投資助言契約は、当事者の一方の相手方に対して30日前の書面による解約の意思表示の通知がなされた場合、契約が終了します。ただし、当該契約はマザーファンドの償還日に終了するものとします。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(<http://www.russell.com/jpin/>)に掲載します。

ただし、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用報告書

- (a) 委託会社は、毎決算時および償還時に、計算期間中の運用経過のほか信託財産の内容、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に交付します。
- (b) 委託会社は、運用報告書(全体版)を作成し、委託会社のホームページ(<http://www.russell.com/jpin/>)に掲載します。
- (c) 上記(b)の規定にかかわらず、受益者からの運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、これを交付します。

4【受益者の権利等】

受益者の主な権利の内容は次の通りです。

収益分配金請求権

収益分配金は、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日(決算日)の翌営業日に販売会社に交付されます。販売会社は、別に定める契約に基づき受益者に対し遅延なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金請求権

受益者は、当ファンドの信託終了後、口数に応じて償還金を請求することができます。販売会社は、信託終了日(償還日)において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託会社の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。)に対する償還金の支払いを、原則として償還日(当該償還日が休業日の場合は翌営業日とします。)から起算して5営業日目までに開始するものとします。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。ただし、受益者が償還金の支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

換金請求権

受益者は、保有する受益権について、一部解約の実行を請求すること、または買取りを請求することにより換金することができます。詳細は、前述の「第2 管理及び運営 2 換金(解約)手続等」をご参照下さい。

帳簿閲覧請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧および謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

(1) ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第12期計算期間（平成26年4月19日から平成27年4月20日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

なお、従来、当ファンドが監査証明を受けているあらた監査法人は、平成27年7月1日に名称を変更し、PWCあらた監査法人となります。

1【財務諸表】

【ラッセル 日本株式マルチ・マネ - ジャ - ・ファンド（確定拠出年金向け）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第11期 平成26年 4月18日現在	第12期 平成27年 4月20日現在
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	4,116,063,675	5,175,269,168
未収入金	1,122,247	7,897,251
流動資産合計	4,117,185,922	5,183,166,419
資産合計	4,117,185,922	5,183,166,419
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,122,247	7,897,251
未払受託者報酬	2,193,469	2,579,556
未払委託者報酬	31,805,244	37,403,488
流動負債合計	35,120,960	47,880,295
負債合計	35,120,960	47,880,295
純資産の部		
元本等		
元本	3,254,808,147	3,053,925,472
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	827,256,815	2,081,360,652
（分配準備積立金）	609,525,917	1,630,986,456
元本等合計	4,082,064,962	5,135,286,124
純資産合計	4,082,064,962	5,135,286,124
負債純資産合計	4,117,185,922	5,183,166,419

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第11期		第12期	
	自	平成25年 4月19日 至 平成26年 4月18日	自	平成26年 4月19日 至 平成27年 4月20日
営業収益				
有価証券売買等損益		341,968,242		1,423,372,496
営業収益合計		341,968,242		1,423,372,496
営業費用				
受託者報酬		4,239,655		4,904,445
委託者報酬		61,474,954		71,114,285
営業費用合計		65,714,609		76,018,730
営業利益又は営業損失()		276,253,633		1,347,353,766
経常利益又は経常損失()		276,253,633		1,347,353,766
当期純利益又は当期純損失()		276,253,633		1,347,353,766
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		71,201,947		165,568,004
期首剰余金又は期首欠損金()		516,376,562		827,256,815
剰余金増加額又は欠損金減少額		269,707,744		330,991,109
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		269,707,744		330,991,109
剰余金減少額又は欠損金増加額		163,879,177		258,673,034
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		163,879,177		258,673,034
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		827,256,815		2,081,360,652

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間末日の取扱い 平成27年4月18日及び平成27年4月19日が休日のため、信託約款第39条により、当計算期間末日を平成27年4月20日としております。このため当計算期間は367日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第11期	第12期
	平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
1. 期首元本額	3,151,590,939円	3,254,808,147円
期中追加設定元本額	1,039,135,563円	767,309,757円
期中一部解約元本額	935,918,355円	968,192,432円
2. 計算期間末日における受益権の総数	3,254,808,147口	3,053,925,472口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第11期	第12期
自 平成25年 4月19日 至 平成26年 4月18日	自 平成26年 4月19日 至 平成27年 4月20日
分配金の計算過程 平成26年4月18日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(59,782,479円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(145,269,207円)、信託約款に規定される収益調整金(1,636,559,033円)及び分配準備積立金(404,474,231円)より分配対象収益は2,246,084,950円(1万口当たり6,900.80円)であります。分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。	分配金の計算過程 平成27年4月20日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(78,226,650円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(1,103,559,112円)、信託約款に規定される収益調整金(1,659,748,388円)及び分配準備積立金(449,200,694円)より分配対象収益は3,290,734,844円(1万口当たり10,775.40円)であります。分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
-----------------	--

2. 金融商品の内容及びそのリスク	<p>当ファンドが保有する主な金融商品は、売買目的で保有する親投資信託受益証券であります。</p> <p>親投資信託受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクに晒されております。</p> <p>親投資信託受益証券には、株価変動リスク、株式の発行会社の信用リスク、流動性リスクがあり、当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドが投資対象とする親投資信託受益証券は、運用を外部に委託しております。投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用部は、社内規程に基づき、外部委託先運用会社を管理しています。 ・外部委託先運用会社は、運用の詳細を定めた運用ガイドラインを遵守し、運用ガイドラインに違反した場合は直ちに委託会社に報告します。 ・運用部は、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社に運用ガイドライン違反の有無を確認し、その結果を投資政策・運用委員会に報告します。 ・外部委託先運用会社が投資助言会社の投資助言に基づいて運用の指図を行う場合は、当該投資助言会社に対しても、必要な管理（売買執行にかかるモニタリング等を除きます。）を行います。 ・グループ会社に対しても、必要な監督を行っています。 ・法務・コンプライアンス部はファンド全体の管理を行い、主に信託約款、法令等の遵守状況を中心にモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況を確認します。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第11期 平成26年 4月18日現在	第12期 平成27年 4月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項	<p>有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p>	<p>有価証券以外の金融商品 同左</p> <p>有価証券 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

区 分	第11期 平成26年 4月18日現在	第12期 平成27年 4月20日現在
種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	290,122,949	1,274,574,045
合 計	290,122,949	1,274,574,045

(デリバティブ取引等に関する注記)

第11期 平成26年 4月18日現在	第12期 平成27年 4月20日現在
該当事項はありません。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

第11期 自 平成25年 4月19日 至 平成26年 4月18日	第12期 自 平成26年 4月19日 至 平成27年 4月20日
該当事項はありません。	同左

(1口当たり情報に関する注記)

区 分	第11期 平成26年 4月18日現在	第12期 平成27年 4月20日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2542円 (12,542円)	1.6815円 (16,815円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

次表の通りです。

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託 受益証券	ラッセル 日本株式マザーファンド	2,739,252,193	5,175,269,168	-
合計		2,739,252,193	5,175,269,168	-

(注)親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考情報）

ファンドは、「ラッセル 日本株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、同親投資信託の状況は次の通りです。

「ラッセル 日本株式マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

（単位：円）

区 分	平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
	金 額	金 額
資産の部		
流動資産		
金銭信託	127,502	939,239
コール・ローン	1,227,280,214	1,123,683,750
株式	35,949,421,400	37,006,283,100
投資証券	151,252,800	-
派生商品評価勘定	12,901,612	50,090,478
未収入金	296,137,637	519,052,834
未収配当金	363,501,733	316,679,500
未収利息	1,513	1,231
差入委託証拠金	227,562,918	12,508,324
流動資産合計	38,228,187,329	39,029,238,456
資産合計	38,228,187,329	39,029,238,456
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	18,396,530	-
未払金	235,997,692	521,683,290
未払解約金	4,122,246	26,897,249
流動負債合計	258,516,468	548,580,539
負債合計	258,516,468	548,580,539
純資産の部		
元本等		
元本	27,393,729,599	20,367,764,772
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	10,575,941,262	18,112,893,145
元本等合計	37,969,670,861	38,480,657,917
純資産合計	37,969,670,861	38,480,657,917
負債純資産合計	38,228,187,329	39,029,238,456

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>有価証券</p> <p>株式及び投資証券は移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融商品取引所等に上場されている有価証券 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における開示対象ファンドの計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は開示対象ファンドの計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。 開示対象ファンドの計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所等における開示対象ファンドの計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。 ・金融商品取引所等に上場されていない有価証券 時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。 ・時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として開示対象ファンドの計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
<p>1. 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額 38,000,662,027円</p> <p>期中追加設定元本額 2,188,080,136円</p> <p>期中一部解約元本額 12,795,012,564円</p> <p>元本の内訳</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド I - 2 （適格機関投資家限定） 15,027,250,612円</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド （適格機関投資家限定） 4,636,781,123円</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド I - 3 （適格機関投資家限定） 4,425,879,463円</p> <p>ラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド（確定拠出年金向け） 2,969,528,660円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 安定型 23,191,285円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 安定・成長型 165,225,136円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 成長型 145,873,320円</p> <p>計 27,393,729,599円</p>	<p>1. 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額 27,393,729,599円</p> <p>期中追加設定元本額 1,873,663,493円</p> <p>期中一部解約元本額 8,899,628,320円</p> <p>元本の内訳</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド I - 2 （適格機関投資家限定） 9,987,426,772円</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド （適格機関投資家限定） 3,221,330,740円</p> <p>ラッセル 日本株式ファンド I - 3 （適格機関投資家限定） 4,171,571,456円</p> <p>ラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド（確定拠出年金向け） 2,739,252,193円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 安定型 17,660,180円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 安定・成長型 109,928,275円</p> <p>ラッセル グローバル・バランス・ファンド 成長型 120,595,156円</p> <p>計 20,367,764,772円</p>

2. 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数 27,393,729,599口	2. 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数 20,367,764,772口
---	---

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及びそのリスク	<p>当ファンドが保有する主な金融商品は、有価証券及びデリバティブ取引等であり、投資対象とする金融商品は、株価変動リスク、株式の発行会社の信用リスク、流動性リスクに晒されております。</p> <p>デリバティブ取引等には、株式関連では株価指数先物取引が含まれております。デリバティブ取引等は、信託財産に属する資産の効率的な運用、または将来の価格変動リスクを回避し、安定的な利益確保を図ることを目的としております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドは、運用を外部に委託しております。投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用部は、社内規程に基づき、外部委託先運用会社を管理しています。 ・外部委託先運用会社は、運用の詳細を定めた運用ガイドラインを遵守し、運用ガイドラインに違反した場合は直ちに委託会社に報告します。 ・運用部は、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社に運用ガイドライン違反の有無を確認し、その結果を投資政策・運用委員会に報告します。 ・外部委託先運用会社が投資助言会社の投資助言に基づいて運用の指図を行う場合は、当該投資助言会社に対しても、必要な管理（売買執行にかかるモニタリング等を除きます。）を行います。 ・グループ会社に対しても、必要な監督を行っております。 ・法務・コンプライアンス部はファンド全体の管理を行い、主に信託約款、法令等の遵守状況を中心にモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況を確認します。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として開示対象ファンドの計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引等に関する事項	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>有価証券</p>	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品 同左</p> <p>有価証券</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引等 「（デリバティブ取引等に関する注記）」の「取引の時価等に関する事項」に記載しております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引等に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引等における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引等のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	<p>同左</p> <p>デリバティブ取引等 同左</p> <p>同左</p>
----------------------------	--	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

区分	平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	934,118,466	6,065,883,958
投資証券	2,491,017	-
合計	936,609,483	6,065,883,958

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

株式関連（平成26年 4月18日現在）

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	1,744,317,318	-	1,739,000,000	5,317,318
合計		1,744,317,318	-	1,739,000,000	5,317,318

株式関連（平成27年 4月20日現在）

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	1,419,662,923	-	1,469,865,000	50,202,076
合計		1,419,662,923	-	1,469,865,000	50,202,076

(注) 1. 株価指数先物取引の評価方法

原則として開示対象ファンドの計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、開示対象ファンドの計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 株価指数先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。

3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 平成25年 4月19日 至 平成26年 4月18日	自 平成26年 4月19日 至 平成27年 4月20日
該当事項はありません。	同左

(1口当たり情報に関する注記)

区 分	平成26年 4月18日現在	平成27年 4月20日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.3861円 (13,861円)	1.8893円 (18,893円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

株式

次表の通りです。

(単位：円)

銘柄	株式数	評価額		備考
		単価	金額	
日本水産	198,400	357	70,828,800	
国際石油開発帝石	75,500	1,448	109,324,000	
石油資源開発	6,700	4,415	29,580,500	
清水建設	89,000	866	77,074,000	
鹿島建設	111,000	553	61,383,000	
西松建設	180,000	433	77,940,000	
前田建設工業	49,000	897	43,953,000	
パナホーム	89,000	879	78,231,000	
大和ハウス工業	25,500	2,693	68,671,500	
関電工	65,000	694	45,110,000	
きんでん	89,000	1,568	139,552,000	
九電工	79,000	1,345	106,255,000	
日本ハム	37,000	2,664	98,568,000	
アサヒグループホールディングス	27,900	4,028	112,395,150	
コカ・コーラウエスト	45,400	2,074	94,159,600	
日清食品ホールディングス	18,600	5,690	105,834,000	
日本たばこ産業	71,500	4,122	294,723,000	
東洋紡	536,000	177	94,872,000	
日清紡ホールディングス	74,000	1,235	91,390,000	
オンワードホールディングス	24,000	807	19,368,000	
王子ホールディングス	93,000	531	49,383,000	
日本製紙	20,000	1,994	39,880,000	
北越紀州製紙	25,700	647	16,627,900	

レンゴー	33,000	518	17,094,000
昭和電工	768,000	164	125,952,000
クレハ	26,000	522	13,572,000
トクヤマ	57,000	279	15,903,000
セントラル硝子	12,000	549	6,588,000
関東電化工業	17,000	783	13,311,000
信越化学工業	13,500	7,544	101,844,000
日本触媒	55,000	1,680	92,400,000
カネカ	54,000	844	45,576,000
三菱瓦斯化学	72,000	608	43,776,000
三井化学	430,000	387	166,410,000
J S R	18,800	2,139	40,213,200
住友ベークライト	273,000	547	149,331,000
日本ゼオン	78,000	1,130	88,140,000
宇部興産	220,000	197	43,340,000
ダイキョーニシカワ	4,700	3,520	16,544,000
花王	41,900	5,911	247,670,900
富士フイルムホールディングス	52,100	4,543	236,716,350
コーセー	16,100	6,970	112,217,000
ユニ・チャーム	75,300	3,067	230,982,750
アステラス製薬	259,000	1,883	487,697,000
大日本住友製薬	59,000	1,376	81,184,000
塩野義製薬	24,700	4,115	101,640,500
田辺三菱製薬	7,600	2,060	15,656,000
中外製薬	8,600	3,685	31,691,000
科研製薬	32,000	4,395	140,640,000
ロート製薬	145,300	1,715	249,189,500
小野薬品工業	8,600	12,770	109,822,000
生化学工業	16,400	2,047	33,570,800
沢井製薬	18,000	6,830	122,940,000
ゼリア新薬工業	31,900	1,929	61,535,100
第一三共	95,600	1,964	187,806,200
大塚ホールディングス	24,300	3,942	95,790,600
コスモ石油	87,000	179	15,573,000
出光興産	15,900	2,360	37,524,000
J Xホールディングス	405,800	516	209,595,700
ブリヂストン	52,800	5,002	264,105,600
旭硝子	67,000	808	54,136,000
日本板硝子	175,000	126	22,050,000
日本電気硝子	214,000	661	141,454,000
日本コンクリート工業	212,200	481	102,068,200
東海カーボン	38,000	355	13,490,000
日本カーボン	158,000	394	62,252,000
日本碍子	44,000	2,582	113,608,000
日本特殊陶業	30,500	3,160	96,380,000
フジインコーポレーテッド	17,000	2,103	35,751,000
ニチアス	239,000	705	168,495,000
新日鐵住金	617,000	313	193,244,400
神戸製鋼所	457,000	231	105,567,000
ジェイ エフ イー ホールディングス	105,000	2,828	296,992,500

日新製鋼	53,000	1,673	88,669,000
東京製鐵	14,600	895	13,067,000
大同特殊鋼	57,000	543	30,951,000
大平洋金属	31,000	343	10,633,000
三菱製鋼	105,000	274	28,770,000
日本軽金属ホールディングス	91,700	187	17,147,900
三菱マテリアル	320,000	421	134,720,000
DOWAホールディングス	76,000	1,063	80,788,000
古河電気工業	141,000	218	30,738,000
住友電気工業	75,100	1,655	124,328,050
フジクラ	65,000	552	35,880,000
リョービ	188,000	401	75,388,000
アサヒホールディングス	21,600	2,167	46,807,200
東洋製罐グループホールディングス	24,300	1,771	43,035,300
三和ホールディングス	110,200	904	99,620,800
LIXILグループ	26,400	2,684	70,857,600
タクマ	83,000	924	76,692,000
アマダホールディングス	97,900	1,160	113,564,000
富士機械製造	46,200	1,424	65,788,800
DMG森精機	63,900	1,988	127,033,200
ディスコ	8,500	11,230	95,455,000
日東工器	40,100	2,385	95,638,500
やまびこ	1,000	5,440	5,440,000
ナブテスコ	33,100	3,240	107,244,000
住友重機械工業	88,000	806	70,928,000
ハーモニック・ドライブ・システムズ	24,900	2,417	60,183,300
クボタ	60,000	1,898	113,880,000
新東工業	16,800	998	16,766,400
小森コーポレーション	19,200	1,427	27,398,400
ダイキン工業	32,800	7,966	261,284,800
加藤製作所	10,000	797	7,970,000
ホシザキ電機	11,300	7,460	84,298,000
日本トムソン	35,000	670	23,450,000
IHI	141,000	525	74,025,000
イビデン	22,000	2,039	44,858,000
日立製作所	313,000	798	249,867,900
東芝	328,000	479	157,276,000
三菱電機	154,000	1,514	233,233,000
マブチモーター	13,200	6,560	86,592,000
日本電産	75,800	8,160	618,528,000
富士通	206,000	789	162,595,800
セイコーエプソン	62,000	2,126	131,812,000
ジャパニディスプレイ	79,800	498	39,740,400
パナソニック	144,800	1,588	229,942,400
ソニー	23,100	3,616	83,529,600
TDK	19,400	8,250	160,050,000
ミツミ電機	19,600	913	17,894,800
タムラ製作所	23,000	513	11,799,000
フォスター電機	1,400	2,960	4,144,000
アオイ電子	3,400	4,940	16,796,000

船井電機	44,600	1,396	62,261,600	
キーエンス	9,000	62,700	564,300,000	
シスメックス	32,200	6,510	209,622,000	
フェローテック	41,600	727	30,243,200	
ウシオ電機	22,200	1,593	35,364,600	
ファナック	600	25,625	15,375,000	
ローム	8,900	7,840	69,776,000	
浜松ホトニクス	46,000	3,500	161,000,000	
新光電気工業	14,700	853	12,539,100	
村田製作所	7,400	16,635	123,099,000	
ニチコン	9,500	1,106	10,507,000	
日本ケミコン	29,000	366	10,614,000	
ミツバ	17,800	2,544	45,283,200	
キヤノン	24,900	4,490	111,813,450	
リコー	46,000	1,330	61,203,000	
デンソー	22,200	5,661	125,674,200	
三井造船	136,000	207	28,152,000	
川崎重工業	405,000	601	243,405,000	
日産自動車	179,000	1,266	226,614,000	
いすゞ自動車	113,900	1,566	178,367,400	
トヨタ自動車	182,100	8,262	1,504,510,200	
新明和工業	82,000	1,171	96,022,000	
トピー工業	213,000	294	62,622,000	
カヤバ工業	36,000	452	16,272,000	
ケーヒン	9,100	1,903	17,317,300	
マツダ	45,300	2,352	106,545,600	
本田技研工業	73,200	4,177	305,793,000	
スズキ	35,700	3,771	134,642,550	
富士重工業	71,300	3,994	284,807,850	
ヤマハ発動機	25,700	2,918	74,992,600	
ショーワ	3,100	1,272	3,943,200	
シマノ	8,800	16,840	148,192,000	
テルモ	121,400	3,150	382,410,000	
シチズンホールディングス	146,800	930	136,524,000	
CYBERDYNE	10,100	3,255	32,875,500	
セイコーホールディングス	301,000	615	185,115,000	
ニプロ	40,500	1,166	47,223,000	
フジシールインターナショナル	97,900	3,590	351,461,000	
凸版印刷	210,000	977	205,170,000	
大日本印刷	105,000	1,226	128,782,500	
日本写真印刷	32,600	2,286	74,523,600	
アシックス	72,800	3,060	222,768,000	
ピジョン	13,200	9,260	122,232,000	
任天堂	12,400	20,245	251,038,000	
岡村製作所	67,300	941	63,329,300	
アデランス	21,300	1,138	24,239,400	
東京電力	52,000	475	24,700,000	
中部電力	48,800	1,447	70,638,000	
関西電力	53,400	1,171	62,531,400	
九州電力	68,200	1,192	81,294,400	

東京瓦斯	207,000	731	151,420,500
東京急行電鉄	87,000	773	67,251,000
東日本旅客鉄道	24,000	10,625	255,000,000
西日本旅客鉄道	4,200	6,564	27,568,800
東海旅客鉄道	11,300	21,660	244,758,000
鴻池運輸	23,300	1,272	29,637,600
福山通運	24,000	677	16,248,000
セイノーホールディングス	138,700	1,360	188,632,000
日本郵船	441,000	354	156,114,000
商船三井	411,000	413	169,743,000
川崎汽船	245,000	317	77,665,000
日本航空	36,900	3,925	144,832,500
デジタルアーツ	50,700	1,170	59,319,000
新日鉄住金ソリューションズ	21,500	3,670	78,905,000
ITホールディングス	48,400	2,377	115,046,800
コーエーテクモホールディングス	21,200	1,840	39,008,000
ネクソン	56,900	1,632	92,860,800
コロブラ	34,700	2,554	88,623,800
ティーガイア	48,200	1,648	79,433,600
カヤック	17,400	2,316	40,298,400
ティー・ワイ・オー	326,800	207	67,647,600
フジ・メディア・ホールディングス	42,200	1,753	73,976,600
ヤフー	288,100	511	147,219,100
トレンドマイクロ	9,900	4,125	40,837,500
日本オラクル	25,000	5,430	135,750,000
日本テレビホールディングス	20,900	2,117	44,245,300
スカパーJ S A Tホールディングス	60,500	768	46,464,000
U - N E X T	6,000	4,420	26,520,000
日本電信電話	93,800	8,171	766,439,800
K D D I	203,200	2,878	584,809,600
N T T ドコモ	107,300	2,228	239,118,050
K A D O K A W A ・ D W A N G O	20,900	1,909	39,898,100
東宝	23,900	3,160	75,524,000
東映	136,000	896	121,856,000
D T S	2,200	2,334	5,134,800
スクウェア・エニックス・ホールディングス	31,900	2,551	81,376,900
S C S K	26,200	3,495	91,569,000
コナミ	18,500	2,267	41,939,500
フィールズ	39,400	2,046	80,612,400
双日	214,500	221	47,404,500
アルフレッサ ホールディングス	4,400	1,751	7,704,400
メディopalホールディングス	52,200	1,636	85,399,200
伊藤忠商事	234,800	1,429	335,646,600
丸紅	293,800	711	208,979,940
三井物産	255,900	1,619	414,430,050
住友商事	242,300	1,346	326,135,800
三菱商事	359,000	2,484	891,935,500
キヤノンマーケティングジャパン	3,200	2,399	7,676,800
阪和興業	40,000	493	19,720,000
P a l t a c	39,900	1,716	68,468,400

加藤産業	6,600	2,539	16,757,400
ミスミグループ本社	76,400	4,480	342,272,000
スズケン	40,500	3,785	153,292,500
サンエー	17,900	4,515	80,818,500
パル	5,600	3,705	20,748,000
エディオン	15,300	872	13,341,600
あみやき亭	800	4,905	3,924,000
D C Mホールディングス	87,000	933	81,171,000
J・フロント リテイリング	23,900	1,920	45,888,000
三越伊勢丹ホールディングス	54,000	2,086	112,644,000
鳥貴族	10,200	5,250	53,550,000
トリドール	34,700	1,692	58,712,400
良品計画	15,700	18,550	291,235,000
コジマ	101,200	329	33,294,800
サイゼリヤ	33,900	2,446	82,919,400
ヨンドシーホールディングス	47,200	2,663	125,693,600
島忠	30,100	3,060	92,106,000
大塚家具	47,200	1,600	75,520,000
青山商事	19,700	3,935	77,519,500
しまむら	2,100	11,460	24,066,000
高島屋	151,000	1,159	175,009,000
エイチ・ツー・オー リテイリング	33,300	2,232	74,325,600
丸井グループ	62,800	1,408	88,422,400
ユニグループ・ホールディングス	151,500	699	105,898,500
イズミ	21,000	4,780	100,380,000
平和堂	14,100	2,919	41,157,900
ケーズホールディングス	18,400	3,780	69,552,000
ヤマダ電機	95,600	486	46,461,600
アークランドサカモト	11,000	2,838	31,218,000
パロー	23,300	2,585	60,230,500
ファーストリテイリング	1,800	48,075	86,535,000
新生銀行	499,000	248	123,752,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,541,200	826	1,273,647,680
りそなホールディングス	127,800	635	81,204,120
三井住友トラスト・ホールディングス	282,000	535	151,011,000
三井住友フィナンシャルグループ	162,000	4,958	803,196,000
西日本シティ銀行	296,000	373	110,408,000
千葉銀行	49,000	990	48,510,000
群馬銀行	55,000	863	47,465,000
ふくおかフィナンシャルグループ	74,000	688	50,912,000
静岡銀行	38,000	1,292	49,096,000
京都銀行	34,000	1,317	44,778,000
みずほフィナンシャルグループ	983,400	222	219,199,860
山口フィナンシャルグループ	31,000	1,522	47,182,000
北洋銀行	135,300	470	63,591,000
京葉銀行	104,000	729	75,816,000
S B Iホールディングス	86,300	1,551	133,851,300
野村ホールディングス	746,500	717	535,837,700
東海東京フィナンシャル・ホールディングス	73,500	924	67,914,000
損保ジャパン日本興亜ホールディングス	48,100	3,860	185,666,000

MS & A Dインシュアランスグループホールディングス	114,000	3,349	381,786,000
第一生命保険	173,300	1,898	328,923,400
東京海上ホールディングス	47,200	4,774	225,332,800
T & Dホールディングス	58,000	1,697	98,455,000
東京センチュリーリース	7,900	3,800	30,020,000
Jトラスト	13,800	1,203	16,601,400
日本証券金融	19,900	796	15,840,400
ジャックス	19,000	603	11,457,000
オリックス	315,600	1,804	569,342,400
三菱UFJリース	247,000	648	160,056,000
ヒューリック	82,500	1,314	108,405,000
オープンハウス	7,000	3,070	21,490,000
飯田グループホールディングス	27,900	1,639	45,728,100
三井不動産	16,000	3,570	57,128,000
平和不動産	7,400	1,685	12,469,000
日本M & Aセンター	9,000	4,000	36,000,000
クックパッド	19,600	5,500	107,800,000
エムスリー	35,100	2,300	80,730,000
ディー・エヌ・エー	30,700	2,497	76,657,900
ぐるなび	21,200	2,290	48,548,000
ヒビノ	4,800	2,820	13,536,000
ケネディクス	161,700	490	79,233,000
電通	11,500	5,600	64,400,000
リゾートトラスト	37,700	3,165	119,320,500
サイバーエージェント	11,500	6,250	71,875,000
楽天	71,900	2,144	154,189,550
N・フィールド	37,000	1,809	66,933,000
東京ドーム	147,000	498	73,206,000
乃村工藝社	133,400	1,268	169,151,200
セコム	11,000	8,581	94,391,000
メイテック	1,300	3,920	5,096,000
アサツー ディ・ケイ	23,200	3,305	76,676,000
応用地質	14,300	1,541	22,036,300
合計	28,918,800		37,006,283,100

株式以外の有価証券
該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

2【ファンドの現況】

以下は平成27年5月29日現在の当ファンドの現況です。

【純資産額計算書】

資産総額	5,551,474,148 円
負債総額	30,902,063 円
純資産総額(-)	5,520,572,085 円
発行済口数	3,075,439,117 口
1口当たり純資産額(/)	1.7951 円

(参考)「ラッセル 日本株式マザーファンド」の現況

以下は平成27年5月29日現在のマザーファンドの現況です。

純資産額計算書

資産総額	41,592,994,479 円
負債総額	1,000,268,309 円
純資産総額(-)	40,592,726,172 円
発行済口数	20,092,386,373 口
1口当たり純資産額(/)	2.0203 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1)名義書換の手続き等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2)受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3)受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4)受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(5)受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6)償還金

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。

(7)質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金の額

平成27年5月末現在の委託会社の資本金の額：1,609.5百万円

委託会社が発行する株式総数：40,000株

発行済株式総数：34,090株

直近5ヵ年における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2)会社の機構

会社の意思決定機構

経営の意思決定機関として取締役会を置きます。取締役会は、取締役および執行役員の仕事の執行を監督し、会社の業務執行上重要な事項を決定します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行われます。取締役会は、原則として、代表取締役会長が招集し、議長となります。

取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結のときまでとし、欠員の補欠として、または増員により選任された取締役の任期は、前任者の残存期間と同一とします。

代表取締役は、取締役会の決議によって選定します。代表取締役の中から、会長を選定します。代表取締役会長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。

更に、委託会社の業務執行にかかる重要事項を審議する機関として経営委員会、会社が持つリスクを一元的に監視、監督し、法令等遵守態勢を確立するための諮問機関としてリスク管理・コンプライアンス委員会を置きます。

投資運用の意思決定機構

投資方針の企画・立案は、マルチ・マネージャー運用（運用スタイルの異なる複数の外部委託先運用会社を組み合わせる運用）の場合は、運用部がラッセル・インベストメントグループからの助言等に基づいて行い、その他の場合は、運用部およびインベストメント・ディベロプメント部が行います。

投資方針については、代表取締役会長兼CEO、運用部長およびジェネラル・カウンセルを含む議決権を有する6名の委員と、議決権を有しない準委員で構成される投資政策・運用委員会によって審議、決定されます。

同委員会は投資政策・運用委員会規程に基づき、原則月に一度、資産評価・運用状況、運用ガイドライン遵守状況（外部委託先運用会社のガイドライン遵守状況を含みます。）等について、運用部、インベストメント・ディベロプメント部および法務・コンプライアンス部から報告を受けるとともに、その検証を行っています。

上記の体制等は平成27年5月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、投信法に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務等を行っています。

平成27年5月末現在、委託会社の運用する証券投資信託（親投資信託は除きます。）は以下の通りです。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	33本	201,655,794,239円
単位型株式投資信託	0本	0円
追加型公社債投資信託	0本	0円
単位型公社債投資信託	0本	0円
合計	33本	201,655,794,239円

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第17期事業年度(自平成26年1月1日至平成26年12月31日)の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。
なお、従来、委託会社が監査証明を受けているあらた監査法人は、平成27年7月1日に名称を変更し、PwCあらた監査法人となります。

財務諸表

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

		第16期 (平成25年12月31日現在)	第17期 (平成26年12月31日現在)
資産の部			
流動資産			
預金		1,054,936	1,829,172
前払費用		36,735	32,885
未収委託者報酬		355,246	369,328
未収運用受託報酬		969,086	1,225,413
未収投資助言報酬		165,623	183,418
未収入金		2,957	2,524
短期貸付金	2	300,000	166,000
その他流動資産		20,311	31,742
流動資産合計		2,904,897	3,840,485
固定資産			
有形固定資産			
建物付属設備		124,842	116,235
器具備品		63,195	47,835
有形固定資産合計	1	188,037	164,071
無形固定資産			
ソフトウェア		7,037	4,249
無形固定資産合計		7,037	4,249
投資その他の資産			
長期差入保証金		157,890	152,730
長期貸付金	2	166,000	-
投資その他の資産合計		323,890	152,730
固定資産合計		518,965	321,051
資産合計		3,423,863	4,161,536

(単位：千円)

		第16期 (平成25年12月31日現在)	第17期 (平成26年12月31日現在)
負債の部			
流動負債			
預り金		22,968	160,081
未払金			
未払手数料		56,147	47,189
未払委託調査費		420,322	456,795
未払委託計算費		6,759	6,390
その他未払金	2	231,363	291,468
未払金合計		714,593	801,843
未払費用		50,712	63,373
未払消費税等		103,471	194,313
未払法人税等		28,097	22,851
前受金		66,804	63,339

賞与引当金	406,306	439,838
リース債務	4,473	1,916
流動負債合計	1,397,428	1,747,558
固定負債		
資産除去債務	61,104	69,813
長期未払金	663,388	721,379
長期未払費用	383,499	13,848
長期リース債務	5,969	4,053
固定負債合計	1,113,962	809,095
負債合計	2,511,390	2,556,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,609,500	1,609,500
資本剰余金		
資本準備金	-	-
その他資本剰余金	-	-
資本剰余金合計	-	-
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	697,027	4,616
利益剰余金合計	697,027	4,616
株主資本合計	912,472	1,604,883
純資産合計	912,472	1,604,883
負債純資産合計	3,423,863	4,161,536

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第16期 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)	第17期 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	1,421,153	1,294,270
運用受託報酬	3,297,966	4,406,893
投資助言報酬	575,846	576,336
その他収益	347,835	541,505
営業収益合計	5,642,801	6,819,006
営業費用		
支払手数料	216,870	169,467
広告宣伝費	1,386	1,980
調査費		
委託調査費	2,357,275	2,901,034
図書費	4,376	1,485
調査費合計	2,361,651	2,902,520
委託計算費	72,421	68,197
営業雑経費		
通信費	12,830	9,148
印刷費	10,224	8,761
協会費	9,119	9,747

営業雑経費合計	32,175	27,656
営業費用合計	2,684,506	3,169,822
一般管理費		
給料		
役員報酬	92,935	136,108
給料・手当	1,102,319	1,025,169
賞与	176,289	342,802
賞与引当金繰入額	406,306	439,838
給料合計	1,777,850	1,943,919
福利厚生費	144,033	146,028
交際費	14,876	12,401
寄付金	2,477	2,814
旅費交通費	39,439	37,406
租税公課	25,001	18,238
不動産賃借料	189,577	175,130
退職給付費用	159,522	146,887
消耗器具備品費	325,827	324,330
事務委託費	29,608	35,310
修繕費	11,819	14,015
水道光熱費	6,990	6,875
会議費用	2,313	1,966
固定資産減価償却費	50,257	42,509
諸経費	99,400	127,343
一般管理費合計	2,878,997	3,035,180
営業利益又は営業損失（ ）	79,297	614,002
営業外収益		
受取利息	1,472	920
その他営業外収益	909	1,130
営業外収益合計	2,381	2,051
営業外費用		
支払利息	469	246
為替差損	66,842	52,600
営業外費用合計	67,312	52,847
経常利益又は経常損失（ ）	14,367	563,206
特別利益		
株式報酬戻入益	15,364	218,337
特別利益合計	15,364	218,337
特別損失		
割増退職金	3,142	1,345
固定資産除却損	760	-
特別損失合計	3,902	1,345
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ）	25,829	780,198
法人税、住民税及び事業税	61,665	87,787
当期純利益又は当期純損失（ ）	35,836	692,411

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位:千円)

第16期
(自 平成25年 1月 1日
至 平成25年12月31日)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,609,500	284,184	-	284,184	945,375	945,375	948,308	948,308
当期変動額								
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	35,836	35,836	35,836	35,836
資本準備金からその他 資本剰余金への振替	-	284,184	284,184	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 資本準備金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 繰越利益剰余金への振替	-	-	284,184	284,184	284,184	284,184	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	284,184	-	284,184	248,348	248,348	35,836	35,836
当期末残高	1,609,500	-	-	-	697,027	697,027	912,472	912,472

（単位：千円）

第17期 （自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日）								
	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,609,500	-	-	-	697,027	697,027	912,472	912,472
当期変動額								
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	692,411	692,411	692,411	692,411
資本準備金からその他 資本剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 資本準備金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 繰越利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	692,411	692,411	692,411	692,411
当期末残高	1,609,500	-	-	-	4,616	4,616	1,604,883	1,604,883

注記事項

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	該当事項はありません。
--------------------	-------------

2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 (2)無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
4. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対し支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
5. リース取引の処理方法	リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1)消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 (2)連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

前事業年度まで、コンサルティング契約に基づく報酬は、すべて契約の名称に従いコンサルティング報酬としておりました。 当事業年度より、契約の名称がコンサルティング契約でも実質的には投資助言契約である契約については、その報酬を投資助言報酬とした方がより適切であると判断したため、以下の通り、表示方法を変更しております。	
1. 貸借対照表	「未収投資助言報酬」は、「未収コンサルティング報酬」（前事業年度98,750千円）の一部に含めておりましたが、「未収投資助言報酬」（当事業年度101,721千円）の一部としております。
2. 損益計算書	「投資助言報酬」は、「コンサルティング報酬」（前事業年度512,158千円）の一部に含めておりましたが、「投資助言報酬」（当事業年度452,898千円）の一部としております。

(貸借対照表関係)

第16期 平成25年12月31日現在		第17期 平成26年12月31日現在	
*1 有形固定資産の減価償却累計額		*1 有形固定資産の減価償却累計額	
建物付属設備	89,120千円	建物付属設備	105,584千円
器具備品	127,196千円	器具備品	132,672千円
*2 関係会社項目		*2 関係会社項目	
長期貸付金	166,000千円	短期貸付金	166,000千円
短期貸付金	300,000千円	その他未払金	223,231千円
その他未払金	158,400千円		
*3 偶発債務		*3 偶発債務	

<p>当社は海外関係会社との取引に関して、租税条約の規定に基づき、権限ある当局間の相互協議を申し立てております。この協議により生じる可能性がある影響額を合理的に見積もることは困難であります。なお、当該事象による影響は、当事業年度の財務諸表には反映しておりません。</p>	同左
---	----

(損益計算書関係)

<p>第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日</p>	<p>第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日</p>
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

<p>第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日</p>					<p>第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日</p>				
発行済株式の種類及び総数に関する事項					発行済株式の種類及び総数に関する事項				
株式の種類	当期首 株式数 (株)	当期増加 株式数 (株)	当期減少 株式数 (株)	当期末 株式数 (株)	株式の種類	当期首 株式数 (株)	当期増加 株式数 (株)	当期減少 株式数 (株)	当期末 株式数 (株)
発行済株式					発行済株式				
普通株式	34,090	-	-	34,090	普通株式	34,090	-	-	34,090
合計	34,090	-	-	34,090	合計	34,090	-	-	34,090

(リース取引関係)

<p>第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日</p>	<p>第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日</p>
注記すべきリース取引を行っていないため、該当事項はありません。	同左

(金融商品関係)

<p>1. 金融商品の状況に関する事項</p> <p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社は、資金運用については預金等に限定し、また、必要な資金については親会社であるフランク・ラッセル・カンパニーより調達しております。デリバティブに該当する事項はありません。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制 当社が保有する金融資産は、主として預金、国内の取引先に対する未収委託者報酬及び未収運用受託報酬であり、取引先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部において取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制としております。 未払金は、短期間で決済されております。未払金には、外貨建てのものが含まれており、為替変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部においてリスク管理及び残高管理を行う体制としております。</p>				<p>2. 金融商品の時価等に関する事項</p> <p>平成26年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。</p> <p>(単位：千円)</p>			
	貸借対照表 計上額()	時価()	差額		貸借対照表 計上額()	時価()	差額
(1) 預金	1,054,936	1,054,936	-	(1) 預金	1,829,172	1,829,172	-

(2)未収委託者報酬	355,246	355,246	-	(2)未収委託者報酬	369,328	369,328	-
(3)未収運用受託報酬	969,086	969,086	-	(3)未収運用受託報酬	1,225,413	1,225,413	-
(4)短期貸付金	300,000	300,000	-	(4)未払金	(765,850)	(765,850)	-
(5)未払金	(694,677)	(694,677)	-	()負債に計上されているものについては、()で示しております。			
()負債に計上されているものについては、()で示しております。				()負債に計上されているものについては、()で示しております。			
(注1)金融商品の時価の算定方法 (1)預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬、(4)短期貸付金、並びに(5)未払金 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。				(注1)金融商品の時価の算定方法 (1)預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬、並びに(4)未払金 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。			
(注2)金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額				(注2)金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額			
(単位：千円)				(単位：千円)			
	1年以内	1年超 5年以内	5年超		1年以内	1年超 5年以内	5年超
(1)預金	1,054,936	-	-	(1)預金	1,829,172	-	-
(2)未収委託者報酬	355,246	-	-	(2)未収委託者報酬	369,328	-	-
(3)未収運用受託報酬	969,086	-	-	(3)未収運用受託報酬	1,225,413	-	-
(4)短期貸付金	300,000	-	-				

(有価証券関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1. その他有価証券で時価のあるもの 該当事項はありません。	1. その他有価証券で時価のあるもの 該当事項はありません。
2. 当期中に売却したその他有価証券 注記すべき有価証券の売却取引を行っていないため、 該当事項はありません。	2. 当期中に売却したその他有価証券 同左

(デリバティブ取引関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(退職給付関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1. 採用している退職給付制度の概要 退職一時金規程に基づく退職一時金制度と企業型年金規約に基づく確定拠出年金制度を採用しております。	1. 採用している退職給付制度の概要 退職一時金規程に基づく退職一時金制度と企業型年金規約に基づく確定拠出年金制度を採用しております。なお当社が有する退職一時金制度は、簡便法により長期未払金及び退職給付費用を計上しております。
2. 退職給付債務に関する事項 長期未払金 その他未払金	2. 退職一時金制度 (1)長期未払金の当期首残高と当期末残高の調整表
(単位：千円)	(単位：千円)
663,388	19,915

3.退職給付費用の内訳 (単位：千円)		長期未払金の当期首残高	663,388
		退職給付費用	103,956
(1)勤務費用	116,229	退職給付の支払額等	45,966
(2)確定拠出年金制度への掛金拠出額	43,293	長期未払金の当期末残高	721,379
	159,522		
		(2)退職給付費用 簡便法で計算した退職給付費用	(単位：千円) 103,956
		3.確定拠出制度 確定拠出制度への要拠出額	(単位：千円) 42,931

(ストック・オプション等関係)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日	第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日
1.ストック・オプション等に係る当事業年度における費用計上額及び科目名	1.ストック・オプション等に係る当事業年度における費用計上額及び科目名
賞与 175,993 千円	賞与 329,041 千円
2.ストック・オプション等の内容	2.ストック・オプション等の内容
当社は、親会社であるフランク・ラッセル・カンパニーの株式報酬プランに基づき当社の従業員等が受領する株式報酬にかかる費用を負担しておりますが、これらの費用については、「ストック・オプション等に関する会計基準」（企業会計基準第8号 平成17年12月27日）及び「ストック・オプション等に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第11号 平成18年5月31日）に準じた方法により会計処理をしております。	同左
3.ストック・オプション等に係る権利不行使による失効により利益として計上した金額	3.ストック・オプション等に係る権利不行使による失効により利益として計上した金額
株式報酬戻入益 15,364 千円	株式報酬戻入益 218,337 千円

(税効果会計関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (単位：千円)	1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (単位：千円)
繰延税金資産	繰延税金資産
税務上の繰越欠損金 544,590	税務上の繰越欠損金 375,092
未払費用 177,473	未払費用 180,523
賞与引当金 154,437	賞与引当金 156,758
資産除去債務 32,508	資産除去債務 34,706
長期未払金 236,431	長期未払金 257,099
長期未払費用 136,224	長期未払費用 4,935
その他 4,306	その他 14,290
繰延税金資産合計 1,285,973	繰延税金資産合計 1,023,407

評価性引当額	1,285,973	評価性引当額	1,023,407
繰延税金資産の純額	0	繰延税金資産の純額	0
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	38.01%	法定実効税率	38.01%
（調整）		（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	173.66%	交際費等永久に損金に算入されない項目	7.18%
住民税均等割	8.86%	住民税均等割	0.11%
その他	18.21%	評価性引当額の増減	24.93%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	238.74%	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	8.72%
		その他	0.40%
		税効果会計適用後の法人税等の負担率	11.25%
3. 法人税等の変更等による影響 該当事項はありません。		3. 法人税等の変更等による影響 「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は平成27年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については従来の38.01%から35.64%になります。	

(資産除去債務関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在		
資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの			
1. 当該資産除去債務の概要 建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。			
2. 当該資産除去債務の金額の算定方法 使用可能期間を10年8ヶ月と見積もり、割引率は1.395%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。			
3. 当該資産除去債務の総額の増減	3. 当該資産除去債務の総額の増減 当事業年度において、資産の除却時点において必要とされる除却費用が、当初の見積額を超過する見込みであることが明らかになったことから、見積もりの変更による増加額を0.525%で割り引き、変更前の資産除去債務残高に7,857千円加算しております。資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。		
(単位：千円)	(単位：千円)		
当期首残高	60,263	当期首残高	61,104
時の経過による調整額	840	時の経過による調整額	852
見積りの変更による増加額	-	見積りの変更による増加額	7,857
当期末残高	61,104	当期末残高	69,813

(セグメント情報等)

第16期 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)
--

1.セグメント情報					
<p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。</p> <p>従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>					
2.関連情報					
(1)製品及びサービスごとの情報					
（単位：千円）					
	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	1,421,153	3,297,966	575,846	347,835	5,642,801
(2)地域ごとの情報					
<p>営業収益</p> <p>本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。</p> <p>有形固定資産</p> <p>本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。</p>					
(3)主要な顧客ごとの情報					
（単位：千円）					
顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント			
A社（ ）	2,019,323	投資一任業・投資助言業			
（ ）A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。					
3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報					
該当事項はありません。					
4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報					
該当事項はありません。					
5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報					
該当事項はありません。					

第17期					
（自 平成26年 1月 1日					
至 平成26年12月31日）					
1.セグメント情報					
<p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。</p> <p>従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>					
2.関連情報					
(1)製品及びサービスごとの情報					
（単位：千円）					
	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	1,294,270	4,406,893	576,336	541,505	6,819,006

(2)地域ごとの情報 営業収益 本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。 有形固定資産 本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。		
(3)主要な顧客ごとの情報 <div style="text-align: right;">（単位：千円）</div>		
顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント
A社（ ）	2,753,278	投資一任業・投資助言業
（ ）A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。		
3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報 該当事項はありません。		
4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報 該当事項はありません。		
5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報 該当事項はありません。		

(関連当事者情報)

第16期（自平成25年1月1日 至平成25年12月31日）

1. 関連当事者との取引
親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼任等	事業上の関係				
親会社	フランク・ラッセル・カンパニー	アメリカ合衆国、ワシントン州シアトル市	394 百万 ドル	年金コンサル ルティン グ、投資顧 問	間接所有 100%	兼任 0人	インベストメン ト・マネジメン ト・アグリーメ ント、業務委託 契約の締結	貸付金 の回収	500,000	短期 貸付金 長期 貸付金	300,000 166,000

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ラッセル・インベストメント・グループ(株)（非上場）
 フランク・ラッセル・カンパニー（非上場）

(2) 重要な関連会社

該当事項はありません。

第17期（自平成26年1月1日 至平成26年12月31日）

1. 関連当事者との取引
親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼任等	事業上の関係				

親会社	ラッセル・インベストメント・グループ(株)	東京都港区赤坂	356 百万円	持株会社	直接所有 100%	兼任 5人	連結納税	法人税の支払	63,199	未払金	49,997
親会社	フランク・ラッセル・カンパニー	アメリカ合衆国,ワシントン州シアトル市	-	年金コンサルティング、投資顧問	間接所有 100%	兼任 0人	インベストメント・マネジメント・アグリーメント、業務委託契約の締結	貸付金の回収	300,000	短期貸付金	166,000
								営業費用及び一般管理費	1,352,937	未払金	173,234

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ラッセル・インベストメント・グループ(株) (非上場)

フランク・ラッセル・カンパニー (非上場)

ロンドン証券取引所グループ (ロンドン証券取引所)

(2) 重要な関連会社

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日		第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日	
1株当たり純資産額	26,766.57円	1株当たり純資産額	47,077.84円
1株当たり当期純損失()	1,051.23円	1株当たり当期純利益	20,311.26円
損益計算書上の当期純損失()	35,836千円	損益計算書上の当期純利益	692,411千円
1株当たり当期純損失()の算定に用いられた普通株式に関する当期純損失()	35,836千円	1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式に関する当期純利益	692,411千円
差額	-	差額	-
期中平均株式数		期中平均株式数	
普通株式	34,090株	普通株式	34,090株
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失()であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(重要な後発事象)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日		第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日	
該当事項はありません。		該当事項はありません。	

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下、において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記、に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

(1)定款の変更、事業譲渡または事業譲受

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

委託会社はその事業の全部または一部を譲渡するときは、当該期日の1ヵ月前までにその旨を公告して監督官庁に届け出るとともに、すべての営業所の公衆の目に付きやすい場所に掲示したうえ、当該期日から30日以内にその旨を監督官庁に届け出ます。

(2)訴訟その他の重要事項

委託会社および当ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実は発生していません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

（平成27年3月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社 （再信託受託会社：日本マスター トラスト信託銀行株式会社）	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むととも に、金融機関の信託業務の兼営 等に関する法律（兼営法）に基づ き信託業務を営んでいます。

(2)販売会社

（平成27年3月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,711,958百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでい ます。
スルガ銀行株式会社	30,043百万円	
株式会社みずほ銀行	1,404,065百万円	金融商品取引法に定める第一種金 融商品取引業を営んでいます。
損保ジャパン日本興亜DC証券株式 会社	3,000百万円	
岡三証券株式会社	5,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとと もに、金融機関の信託業務の兼営 等に関する法律（兼営法）に基づ き信託業務を営んでいます。
株式会社りそな銀行	279,928百万円	
三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円	

(3)外部委託先運用会社

（平成27年3月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
JPMorgan・アセット・マネジメ ント株式会社	2,218百万円	金融商品取引法に定める投資運用 業等を営んでいます。
ニューメリック・インベスターズ・ エル・エル・シー	リミテッド・ライアピ リティ・カンパニーの ため、該当事項はあり ません。	金融商品取引法に定める外国の法 令に準拠して設立された法人とし て、外国において投資運用業等を 営んでいます。
新光投信株式会社	4,524百万円	金融商品取引法に定める投資運用 業等を営んでいます。
ラッセル・インプリメンテーショ ン・サービシーズ・インク	24,780米ドル （平成26年12月末現在）	金融商品取引法に定める外国の法 令に準拠して設立された法人とし て、外国において投資運用業等を 営んでいます。

<参考：投資助言会社>

（平成27年3月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
カムイ・キャピタル株式会社	900万円	金融商品取引法に定める投資助言 業等を営んでいます。
スパークス・アセット・マネジメン ト株式会社	2,500万円	金融商品取引法に定める投資運用 業等を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1)受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

《再信託受託会社の概要》

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
資本金の額 : 10,000百万円(平成27年3月末現在)
事業内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託会社から再信託受託会社(日本マスタートラスト信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2)販売会社

当ファンドの販売会社として、募集・販売の取扱いを行い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

(3)外部委託先運用会社

委託会社との契約により、マザーファンドに関し、委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用指図を行います。

<参考:投資助言会社>

外部委託先運用会社との投資助言契約により、マザーファンドの運用にかかる投資助言を外部委託先運用会社に行います。

3【資本関係】

ラッセル・インベストメント・グループ株式会社は、委託会社の全株を保有し、同社はフランク・ラッセル・カンパニーの実質的な子会社です。

ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクは、フランク・ラッセル・カンパニーの子会社です。

第3【その他】

- (1)目論見書の表紙にファンドのロゴ・マークやキャッチ・コピー等を表示し、イラスト、写真、図案等を採用することがあります。また、目論見書の裏表紙に委託会社のロゴ・マークを表示することがあります。
- (2)交付目論見書の表紙または表紙裏面の記載について
「投資信託説明書（交付目論見書）」と記載します。
金融商品取引法上の目論見書である旨を記載します。
交付目論見書の使用開始日を記載します。
委託会社に関する情報として、委託会社の名称、金融商品取引業者登録番号、設立年月日、資本金、投資信託財産の合計純資産総額、「ファンドの運用の指図を行う者である。」旨および照会先（ホームページアドレス、電話番号および受付時間等）を記載します。
受託会社に関する情報として、受託会社の名称および「ファンドの財産の保管及び管理を行う者である。」旨を記載します。
請求目論見書の入手方法を記載します。
以下の事項を記載します。
 - ・商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨。
 - ・投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - ・請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨及び当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
 - ・「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載ファンドの管理番号等を記載することがあります。
- (3)交付目論見書の裏表紙に金融商品取引法第37条の3の規定に基づく契約締結前書面に関する事項を記載することがあります。
- (4)請求目論見書の表紙に「投資信託説明書（請求目論見書）」と記載するとともに、委託会社の名称、金融商品取引上の目論見書である旨を記載します。
- (5)請求目論見書の表紙裏に金融商品の販売等に関する法律にかかる重要事項を記載することがあります。
- (6)請求目論見書の巻末に信託約款を掲載し、届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」中「第1 ファンドの状況」の詳細な内容について、当該信託約款を参照する旨を記載することで、届出書の内容の記載とすることがあります。
- (7)届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、交付目論見書で当該内容を説明した図表等を付加して当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (8)目論見書は電子媒体等として使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。
- (9)目論見書の別称として、「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」と称して使用することがあります。
- (10)投信評価機関、投信評価会社等による評価を取得・使用することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成27年3月26日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 男澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているラッセル・インベストメント株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル・インベストメント株式会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年5月13日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 男 澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド（確定拠出年金向け）の平成26年4月19日から平成27年4月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル 日本株式マルチ・マネージャー・ファンド（確定拠出年金向け）の平成27年4月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

ラッセル・インベストメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。